

召集令狀ニ對スル心得

- 一 旅費ハ來 日午前 時ヨリ 二於テ支給スヘシ
- 二 此令狀ヲ受取タルトキハ必ス二十四時間以内ニ發足シ 發足ノ節ハ印形履歴表ヲ持參スルヲ前記ノ場所ニ到リ旅費及旅費交附時日證票ヲ受取リ忘ルヘカラス
- 三 旅費ヲ受取ルトキ 一日行程少クトモ十二里詰 沿道ニ汽車汽船ノ便此令狀ヲ示スヘシ
- 四 依ルヘシヲ以テ旅行シ鎮守府海兵團ニ參著シ此令狀、履歴表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ
- 五 發足ノ節ハ前記ノ印形履歴表ノ外ニ私服ヲ包ム爲メニ風呂敷ノ類ト之ニ附スル姓名札 成ル可ク木又ハ革等ニテヲモ持參スヘシ
- 六 召集地ニ到ルノ途中汽車汽船ニ事故アリ若クハ疾病川支等ノ爲メニ旅行ノ延滞ヲ生シタルトキハ其事由ト延滞セル時日ヲ記シハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ之ヲ海兵團長ニ届出テ且長、事務長若クハ會社、川支等ナレハ其地ノ憲兵警察官島司郡市長若クハ町村長ノ證印ヲ受ケ參著ノ時之ヲ海兵團長ニ差出スヘシ
- 七 此令狀ヲ受取リタルトキ傷疾疾病若クハ病後ニテ到底二十四時間以内ニ發足シ能ハサルトキハ其事由書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ之ヲ海兵團長ニ届出テ且

裏

樣式第二

曲尺六寸二分

此令狀ヲ一先ツ島司郡市長ニ返附シ置キ快愈ニ至ラハ速ニ之ヲ前記ノ手續ニ依テ届出テ且直ニ島廳郡區市役所ニ到リ再ヒ令狀旅費及旅費交附時日證票ヲ受取リ(二)ニ記セル如ク海兵團ニ到ルヘシ

表

此召集令狀ノ配達ヲ受ケタルトキ名宛ノ本人犯罪失踪旅行寄留等ニテ家ニ在ラス二十四時間以内ニ發足シテ召集ニ應セシムル能ハサル者ハ家族親族若クハ召集通報人其事由ヲ詳記シ憲兵 憲兵隊ヲ置カサル府ノ證認及市町村長ノ與書證印ヲ受ケ島司郡區市長ヲ經テ海兵團長ニ届出ツヘシ

召集令狀ハ之レト同時ニ島 其召集令狀受領後逃亡セル者アルトキモ亦同シ

何府(縣)何郡(區)何(町)村何番地

(何)備役

海軍(何官職) (姓) (名)

分二寸四尺曲

此處へ赤キ紙片ヲ貼附スヘシ

殿召集令狀在中

封筒糊封スヘカラス

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令

裏

(何) 鎮守府

樣式第三

曲尺四寸

截切線

領收證

一召集令狀

一通

右正ニ領收候也

明治(何)年(何)月(何)日午前
後

曲尺三寸

(何)備役

海軍(何官職)(姓名)印

召集令狀到着ノ時若シ本人不在ナルトキハ家族親族若クハ召集通報人ニ於テ之ヲ受取リ空白ノ處へ署名捺印スヘシ

本領收證ハ封筒ノ下ニ貼附シアルモノトス

樣式第四

旅費交附時日證票

(何)備役

海軍(何官職)(姓名)

右(何)月(何)日午前午後(何)時定規ノ旅費ヲ交附セリ

明治(何)年(何)月(何)日

署名

様式第五

警報

海軍豫備役(後備役)下士卒召集相成候事特ニ明治(何)年(何)月(何)日以
 後現役ヲ離レタル者ヲ召集スルノ
 令アリタルトキハ之ヲ明記スヘシ

明治(何)年(何)月(何)日

●海軍省令第八號 (明治二十七年七月二日)

海軍臨時召集旅費支出規程

第一條 海軍臨時召集旅費ハ島前郡長北海道函館及札幌市長ニ於テ毎年三月一日現在スヘキ其管内在住ノ海軍豫備後備ノ臨時應召員ヲ豫定シ之ニ要スル召集旅費ヲ計算シ召集費概算表ヲ作り三月三十一日マテニ所轄鎮守府海兵團へ差出スヘシ鎮守府海兵團ハ前項概算表ノ金額ヲ調査シタル後鎮守府監督部ニ送付ス鎮守府監督部ハ該金額人員ノ合計表ヲ調製シ海軍省ニ届出テ概算表ハ海軍司計部ニ交付スヘシ

シ

海軍省ハ毎年一回海軍臨時召集旅費概算表ヲ作り大藏省ニ送付ス此ノ概算表ハ翌年四月三十日マテ有効ノモノトス

第二條 北海道廳長官府縣知事ハ前條召集旅費ヲ應召者ニ給與スル爲メ便宜ノ地ヲ選定シ其ノ市町村名及第六條第一項ノ現金前渡ヲ受ケ仕拂ヲナスヘキ島司郡長若クハ收稅署長ノ官職姓名ヲ取調當該鎮守府監督部ニ豫メ通牒シ置キ爾後該吏員變更アルトキハ其時々通牒スヘシ

鎮守府監督部長前項ノ通牒ヲ受ケタルトキハ即時當該海軍司計部ニ通知シ又海軍省ニ報告スヘシ

第三條 海軍省ハ第一條ノ届書ニヨリ平時ニ於テ豫メ臨時召集旅費ノ豫算要求書及仕拂豫算計算書ヲ調製シ置キ戰時若クハ事變ニ際シ大藏省ヲ經テ要求書ノ裁定ヲ得即時電信其他ノ方法ヲ以テ鎮守府監督部ヲ經テ海軍司計部へ配付豫算ヲ令達スヘシ

第四條 鎮守府監督部ハ前條ノ令達ニ接シタルトキハ臨時召集概算表ノ金額ヲ目的トシ現金前渡ヲ受クヘキ官吏へ旅費金額送付方ヲ當該海軍司計部ニ請求スヘシ

海軍臨時召集旅費支出規程

廿七年七月
海軍省
令第十號
參看

- 第五條 海軍司計部ハ前條ノ請求ヲ調査シ直ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發行スヘシ
 - 第六條 現金前渡ヲ受クヘキ官吏ハ島司郡長收稅署長トス
島司郡長若クハ收稅署長前條ノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ出納官吏現金取扱規則ニ依リ現金ヲ取扱ヒ其ノ管内召集ニ應スヘキ豫備後備在住軍人ニ對シ各自ニ召集地ニ到ル定則ノ旅費ヲ支給スヘシ
臨時召集旅費支給ニ係ル事務ハ最モ迅速ヲ要ス故ニ出納官吏タルモノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ分タス處辨スヘシ
 - 第七條 島司郡長若クハ收稅署長ハ召集終レハ會計檢査院ニ提出スヘキ仕拂計算書及證書類ヲ當該海軍司計部ニ送付スヘシ
 - 第八條 應召員ニシテ行程ノ便宜ニ依リ旅費ノ支給ヲ受ケスシテ直ニ召集地ニ參着シタルトキハ所轄鎮守府海兵團ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得此場合ニ於テハ海兵團ヨリ當該現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ其旨ヲ通牒スヘシ
 - 第九條 演習召集旅費モ此規程ニ準據シ取扱フヘシ
- 附則
- 第十條 本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス但第一條ノ召集旅費概算表ハ本年ニ限り本規程到達ノ日ノ現在員ニ依リ取調一週日內ニ所轄鎮守府海兵團ニ差出スヘシ

●海軍省訓令第一號 (明治二十七年十一月八日)

北海道廳 府縣

本年七月海軍省令第八號海軍臨時召集旅費支出規程ニ依リ出納官吏ニ係ル左ノ件々ハ道廳長官府縣知事ニ於テ執行スヘシ

- 一 出納官吏事故ニ依リ代理ヲ要スルトキ其代理者ノ命免
- 二 會計規則第九十一條第九十二條及第百條ニ依リ要スル檢査員立會員若クハ計算書調製セシムヘキ官吏ノ任命

●海軍省令第六號 (明治二十七年七月二日)

海軍豫備役後備役下士卒中寄留地又ハ乗組船舶ノ船籍港等ニ於テ召集ニ應セントスル者ノ願屆手續左ノ通定ム

- 一 豫備役及後備役下士卒他廳府縣ニ寄留スル者其ノ地ニ戶籍ヲ有スル者ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル

地ハ區戶長)ノ與書證印ヲ受ケ豫メ本籍鎮守府海兵團長ニ願出其ノ許可ヲ受クヘシ但本項ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ寫ニ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ノ與書證印ヲ受ケ原籍地ノ町村長(町村制ヲ施行セサル地ハ戶長)ヲ經テ郡長ニ島嶼ハ島司ニ市制施行地ハ直ニ市長ニ北海道函館區及札幌區ハ直ニ區長ニ届出且寄留地郡長島司ニモ届出ツヘシ

本項ノ許可ヲ得タル者其ノ寄留地若シ他鎮守府志願兵徵募區ニ屬スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

一 豫備役及後備役下士卒海員トナリテ船舶乗組中ノ者ハ願ニ依リ其ノ船舶ノ船籍港若クハ平常運航ノ一港ニ戶籍ヲ有スル豫備役後備役下士卒ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應スルコトヲ得但其ノ願届ノ手續ハ前項ノ例ニ從フヘシ

本項ノ場合ニ於テハ召集ノ令アリシトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ(陸上ニ在ル者ニシテ船舶所有者若クハ其ノ代理人等最モ良シ)本項ノ願書中ニ其ノ者ノ住所姓名ヲ記入シ其ノ者ノ捺印ヲ受クヘシ

本項ノ許可ヲ得タル者其ノ召集ニ應スル港地若シ他鎮守府ノ志願兵徵募區ニ屬

スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

●海軍省令第五十號 (明治二十年五月)

徵兵令ニ依リ徵集シタル海軍現役ニシテ身上異動ヲ生スルトキハ入營前後ノ別ナク戶主又ハ親族ノ者ヨリ届出郡區戶長與書證印シ横須賀鎮守府へ届出ヘシ

●海軍省令第六號 (明治二十一年五月十五日)

海軍豫備兵歸家シタルトキハ其日ヨリ三日以内ニ戶長ニ届出戶長ハ之ヲ郡區長ニ届出可シ

海軍豫備兵後備兵外國へ航海又ハ在留セントスルトキハ其事由ヲ詳記シテ戶長ノ與書證印ヲ受ケ鎮守府海兵團へ願出許可ヲ得可シ

鎮守府海兵團ニ於テ前項ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ郡區役所ニ通知ス可シ

海軍豫備兵後備兵轉籍寄留又ハ失踪犯罪其他身上ノ異動アルトキハ戶長ノ與書證印ヲ受ケ戶主本人戶主ニシテ失踪犯罪其他ニテ自ラ届出ル能ハサルトキハ親族ヨリ速ニ鎮守府海兵團へ届出郡區長ニハ其寫ヲ以テ届出可シ

廿一年九月十五號參看

各郡區役所ニ於テハ豫備役兵名簿後備役兵名簿ヲ備ヘ置キ身上異動アル毎ニ記入シ置ク可シ

●勅令第八十七號 (明治二十五年十月六日)

海軍軍人結婚條例

第一等 海軍軍人結婚ヲ爲スニハ將官並同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ上長官士官准士官ニ在テハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 各候補生ハ結婚スルヲ得ス

第三條 現役下士ハ年齡滿二十五歲以上ニ至ラサレハ結婚スルヲ得ス

現役卒ハ年齡滿二十五歲以上ニシテ一等卒ニ進級シタル後ニ非サレハ結婚スルヲ得ス

第四條 配偶者タルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齡十六歲以上ナルヲ要ス

附則

第五條 海軍武官結婚條例ハ本條例發布ノ日ヨリ廢止ス

●海軍省令第二號 (明治二十五年十月七日)

海軍一般

北海道廳 府縣

海軍々人結婚願出手續

第一條 海軍々人結婚條例第一條ニ依リ結婚ノ許可ヲ願ハントスル者ハ左ノ書式ニ依リ將官並相當官ハ直ニ海軍大臣ニ差出シ上長官士官及准士官ハ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ差出シ下士卒ハ所轄長ヲ經テ所管長官ニ差出スヘシ

書式

結婚願

何府縣何國何郡區何町村何番地
華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

何年何月何日生

何年何月何年何箇月

右記載ノ者ト結婚致度候間御許可被下度別紙身元證書相添此段奉願候也

年月日

官(職) 姓

名 印

海軍大臣(所管長官)宛

前書ノ趣不都合無之ニ付御許可相成度候也

年月日

所管長官(所轄長)姓 名 印

身元 證書

何府縣何國何郡市區何町村何番地

華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

何年何月何日生

何年何月何年何箇月

右ハ行狀端正ニシテ年齢前書ノ通相違無之候此段保證候也

年月日

何府縣何國何郡市區町村長 姓名 印

第二條 各軍人ノ結婚ハ條例ニ依リ許可ヲ得タル後普通人事ノ手續ヲ爲スモノトス

第三條 結婚整ヒタルトキハ其旨速ニ准士官以上ハ海軍大臣ニ届出下士卒ハ所管長官ニ届出ヘシ

●勅令第五十六號 (明治二十二年四月二十九日)

海軍下士服役條例

第一條 海軍下士ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス

第二條 現役ハ六箇年ニシテ下士ニ任シタル日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス

卒ノ服役年數ヲ通算シ現役十二箇年以上十六箇年未滿ノ者ハ現役ヲ通算シテ滿十六箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

卒ノ服役ヲ通算シテ現役滿十六箇年ヲ過タル者ハ兵役ヲ免ス

第三條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年數ニ算入セス

第四條 現役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ本人ヲ要スルトキハ父母 父母ナキトキハ親族ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムル若クハ近隣二人以上

コトアル可シ服役中養子分家又ハ絶家廢家再興他家相續人トナルタメ本文ノ事故ヲ生シタル者ハ此限ニ在ラス

前項ニ依リ豫備役ニ入りタル者ハ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

第五條 現役中傷痍若クハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ豫備役ニ服セシム

第六條 現役中傷痍若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者其役ヲ免ス

第七條 服役期限己ニ滿ルト雖ハ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉アルトキ又ハ航海中ハ其期限ヲ延ハスコトアル可シ

第八條 下士ノ服役ヲ退キタルトキハ其官ヲ免スルモノトス

附則

第九條

第十條 艦内教授警吏ニシテ現役滿六箇年ヲ過キタル者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム現役十箇年ヲ過キタル者ハ服役ヲ免ス

廿三年二月勅令第六號ニテ削除

●海軍省令第三條 (明治二十九年三月二十八日)

望樓長望樓手任用試験規則

第一條 望樓長望樓手ヲ志願スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ願書第一號ニ履歷書第三號書式ヲ添ヘ海軍省ニ差出スヘシ

第二條 試験ハ分テ身體檢査及學術試験ノ二トス學術試験ハ身體檢査ニ合格シタル者ニアラサレハ行ハス

第三條 望樓長ノ學術試験科目ハ左ノ如シ

讀書 漢字交 作文 通俗 算術 四則ヨリ 比例マテ

電信術 各國ノ國旗並軍艦旗ノ識別

望樓手ノ試験科目ハ前項ヲ適用ス但其ノ問題ハ難易ノ別アルモノトス

第四條 試験委員ハ東京ニ常置ス

第五條 試験ハ東京又ハ鎮守府所在ノ地ニ於テ之ヲ行フ

第六條 鎮守府所在ノ地ニ於テ試験ヲ行フトキハ試験委員長ヨリ其ノ受験者ノ氏名ヲ當該鎮守府司令長官ニ通報ス

望樓長望樓手任用試験規則

第七條 鎮守府所在ノ地ニ於テ身體検査ヲ行フトキハ鎮守府司令長官其ノ部下ノ軍醫官ニ命シ之ヲ行ハシム

第八條 鎮守府所在ノ地ニ於テ學術試験ヲ行フトキハ試験委員長ヨリ密封ヲ以テ問題書ヲ鎮守府司令長官ニ送附ス鎮守府司令長官ハ望樓監督官及其ノ者ニ命シ指定ノ時期ニ試験ヲ施行セシメ其ノ應答書ハ密封ヲ以テ之ヲ試験委員長ニ送附スヘシ

第九條 望樓長望樓手任用令第四條ニ依リ任用セラレント欲スル者ハ願書第二號ニ書式ヲ添ヘ附近ノ鎮守府ニ差出スヘシ

第十條 鎮守府ニ於テ前條ノ願書ヲ受領シタルトキハ望樓監督官ヲシテ之ヲ調査セシメ意見ヲ附シ司令長官ヨリ海軍大臣ニ進達スヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙二ツ折一通)

望樓長(望樓手)任用試験願

氏名

何年何月何日生
年號月何年何箇月

私儀望樓長(望樓手)任用試験相受度履歷書相添此段奉願候也

本籍
現住所

氏名印

年月日

海軍省
御中

第二號書式 (用紙美濃紙二ツ折一通)

望樓長(望樓手)任用願

氏名

何年何月何日生
年號月何年何箇月

私儀望樓長(望樓手)志願ニ付望樓長望樓手任用令第四條ニ依リ任用相成度履歷書相添此段奉願候也

本籍
現住所

氏名印

年月日

海軍大臣宛

第三號書式 (用紙美濃紙二ツ折一通)

履 歷 書

何府縣華士族平民
戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍

氏 名

何年何月何日生
年號月何年何箇月

一本籍(國郡市區町村番地ヲ詳記シ寄留ノ者ハ寄留地ノ住所ヲモ記スヘシ)
一現住地(右ニ同シ)

一修學

一職業技藝等

一官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事(豫備後備海軍准士官及下士卒ハ其ノ奉職中ノ事歴ヲ詳記スヘシ)

一賞罰

一破産若クハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケス(身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケント雖辨償ヲ完了セリ)

前書相違無之候也

何府縣何國何郡市區何町村

市區町村長 區町村長

名 印

年 月 日

●勅令第二百十七號 (明治二十六年十一月二十九日)

海軍兵學校條例

第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ノ學科ハ砲術、水雷術、運用術、航海術、機關術及普通學トス

第三條 生徒ノ學年ハ四箇年トス

但戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトアルヘシ

第四條 海軍兵學校ニ練習船ヲ附屬セシムルコトヲ得

第五條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 海軍少將若クハ大佐

副官 海軍大尉

教頭 海軍大佐

砲術教官 海軍少佐

廿九年九月
廿九日
勅令第九
百六十九
號參看

廿七年九月
廿九日
勅令第九
百六十九
號參看

同	海軍大尉
水雷術教官	海軍少佐
同	海軍大尉
運用術教官	海軍少佐
同	海軍大尉
航海術教官	海軍少佐
同	海軍大尉
機關術教官	海軍機關少監
同	海軍大機關士
普通學教官	海軍教授
監事長	海軍少佐
監事	海軍大尉
軍醫長	海軍軍醫少監
主計長	海軍大主計

前項ノ外海軍大軍醫、少軍醫、大主計及少主計ヲ置ク

第六條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十一條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ及其ノ體育ノ事ヲ掌ル

第十二條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十四條 第五條第二項ニ掲クル軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條 第五條第二項ニ掲クル主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十七條 第九條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹

海軍上等機關兵曹

海軍下士

海軍書記

海軍卒

第十八條 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十年以下ニシテ海軍將校タランコトヲ志願スル者ニ就キ身體檢査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第十九條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第二十條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ退校セシム

一 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十四條 本校ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

(別表)

海軍兵學校定員表

校長	海軍少將若クハ大佐	一	
副官	海軍大尉	二	内一人ハ教官ヲ以テ兼補ス
教頭	海軍大佐	一	
砲術教官	海軍少佐	四	
水雷術教官	海軍少佐	二	
運用術教官	海軍少尉	一	
航海術教官	海軍少尉	三	
	海軍大尉	三	
			海軍下士 二十八
			海軍上等兵曹 三
			海軍上等機關兵曹 一

機關術教官	海軍機關少監 海軍大機關士	二	
普通學教官	海軍教授	九	
監事長	海軍少佐	一	教官ヲ以テ兼補ス
監事	海軍大尉	十二	内二人ハ教官ヲ以テ兼補ス
軍醫長	海軍軍醫少監	一	書記
	海軍大軍醫	二	
	海軍少軍醫	一	海軍卒
主計長	海軍大主計	一	六十
	海軍大主計	一	
	海軍少主計	一	
備考	本表定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ヲ兼務セシムルコトヲ得		

●海軍省達第四百四十八號 (明治二十六年十二月三十日)

海軍兵學校規則

- 第一條 校長ハ教育上ニ關シ詮議ヲ要スルコトアルトキハ教頭教官中ヨリ指名會同シ會議ヲ開キ之ヲ審議決定スヘシ
- 第二條 校長ハ海軍兵學校條例第二十三條ニ該當スト認ムル者アルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上海軍大臣ニ具申スヘシ
- 第三條 校長ハ每學期及全學期ノ終ニ於テ會議ヲ開キ生徒ノ學術品行等ノ實況ヲ審議シ其ノ優劣ヲ議決シ成績表ヲ調製ス可シ
- 第四條 校長ハ大試驗終末大試驗及卒業試驗ノ成績表ニ意見ヲ附シ教頭ノ意見書ヲ添ヘ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第五條 校長ハ每學期ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第六條 校長ハ終末大試驗ニ及第シタル者ニ海軍大臣ノ認可ヲ得航海練習艦乗組ヲ命ス但練習艦ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第七條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受ク可シ
- 第八條 校長ハ監事軍醫官主計官若干名ヲ被服糧食委員ト爲シ生徒ノ被服糧食ニ關スル事ヲ掌ラシムルコトヲ得

三十年三月廿三號參看

- 第九條 校長ハ夏季冬季休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得
- 第十條 校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ得テ毎年十一月生徒ニ入校ヲ命ス
- 第十一條 副官ハ庶務及官印ノ監守ヲ掌ル
- 第十二條 教頭ハ教務ヲ整理シ學術及教授上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ校長ニ具申スヘシ
- 第十三條 教頭ハ試験成績ニ意見ヲ附シ校長ニ差出スヘシ
- 第十四條 教官ハ學術上若クハ教授上ニ關シ意見アルトキハ教頭ニ開申スヘシ
- 第十五條 教官ハ試験ヲ行ヒタルトキハ試験成績ニ意見ヲ附シ教頭ニ出スヘシ
- 第十六條 監事長ハ生徒ノ容儀品行ヲ監督シ體育上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ校長ニ具申スヘシ
- 第十七條 監事長ハ生徒ニ犯罪者アルキハ之ヲ取調ヘ意見ヲ附シ校長ニ具申スヘシ
- 第十八條 監事長ハ每學期ノ終ニ於テ生徒ノ考科表ヲ校長ニ差出スヘシ
- 第十九條 監事長ハ准士官以下ノ勤怠ヲ監督シ犯罪者アルトキハ之ヲ取調ヘ校長ニ具申スヘシ
- 兵學校勤務ノ下士卒ハ校内ニ起臥セシムルモノトス

- 第二十條 監事長ハ下士以下ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス
- 第二十一條 兼務監事ハ生徒分隊ノ長ト爲リ隊員ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス
- 第二十二條 兼務監事ハ交番宿直ノ勤務ニ服ス
- 第二十三條 兼務監事ハ每學期ノ終ニ於テ隊員ノ考科表ヲ監事長ニ出スヘシ
- 第二十四條 專務監事ハ下士以下ヲ督勵シ紀律ヲ守ラシメ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且之ニ係ル事務ヲ掌理ス
- 第二十五條 生徒ハ分隊ニ編成ス
- 第二十六條 學期ハ四期トシ其ノ終ノ一期ハ航海練習艦ニ於テ教授ス學期ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル
- 第二十七條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス
- 第二十八條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年二月之ヲ告示ス
- 第二十九條 生徒ノ試験ハ分チテ左ノ四種トス
 - 一 小試験

二 大試験

三 終末大試験

四 卒業試験

第三十條 試験ノ及第點ハ各科全點數十分ノ五以上トス

第三十一條 大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ學術優等ノ者ニハ本則第五十二條第一圖ノ賞牌及綬ヲ與フ

大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニシテ品行殊ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第五十二條第二圖ノ賞牌及綬ヲ與フ

第三十二條 前條第一項ノ賞牌ヲ有スル者ニシテ大試験若クハ終末大試験ニ落第スルカ若クハ第二項ノ賞牌ヲ有スル者本校生徒懲罰則又ハ海軍懲戒令ニ觸ルコトアルトキハ之ヲ剝奪ス

第三十三條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第三十四條 大試験、終末大試験及卒業試験ノ成績表ニハ各學科ノ得點及席次ヲ掲載シ且品行點ヲ記入スルモノトス但品行點ハ席次ニ關係スルコトナシ

第三十五條 小試験ハ一學期ヲ適宜三回以上ニ分チ執行スルモノトス但シ第四學期

ニハ小試験ヲ行ハス

第三十六條 一學期間ノ小試験得點ハ之ヲ其ノ期大試験若クハ終末大試験ノ得點ニ

合算ス

大試験ノ全點ハ其期各小試験ヲ通シタル合全點ト同數タル可シ

第三十七條 病氣其ノ他已ムヲ得サル事故アリ小試験ニ缺席スル者ハ別ニ試験ヲ行ハス而シテ大試験若クハ終末大試験成績ニ加フルニハ本科ハ大試験若クハ終末大試験ノ科目中ニアル該小試験ニ當ル細目ノ點數ヲ以テシ普通科ハ大試験若クハ終末大試験得點ヲ該一學期間ノ小試験回數ニテ除シタルモノヲ以テス

第三十八條 大試験ハ第一期第二期ノ終ニ於テ行フモノトス

第三十九條 大試験ニハ一學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十條 大試験成績表ニ掲クル點數ハ大試験得點ト該一學期間小試験ノ得點トヲ合セ二分シタルモノトス

第四十一條 終末大試験ハ第三期ノ終ニ於テ行フモノトス

第四十二條 終末大試験ニハ本科ハ三學期中ニ教授シタル學科ヲ試験シ普通科ハ一學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十三條 終末大試験成績表ニ掲クル點數ハ本科ニ在テハ前二期ノ大試験成績點數ニ終末大小試験得點ヲ加ヘ二分シタルモノトシ普通科ニ在テハ前二期ノ大試験成績點數ニ終末大試験成績點ヲ加ヘタルモノトス但終末大試験ニ於ケル本科全點ハ前二期大試験合全點ニ第三期小試験合全點ヲ加ヘタルモノト同數タル可シ

第四十四條 卒業試験ハ全學期ノ終ニ本校ニ於テ行フモノトス但航海術ノ實測ハ別ニ試験ヲ行ハス而シテ其ノ點數ハ練習中ニ得タル點數ヲ卒業試験成績ニ加フルモノトス

第四十五條 卒業試験ニハ第四學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十六條 卒業試験官ハ本校教官中ヨリ校長之ヲ命ス但試験問題ハ校長練習艦長ト協議ノ上定ムルモノトス

第四十七條 卒業試験ノ成績表ニ掲クル點數ハ卒業試験得點實測點數ニ終末大試験ノ成績點數ヲ加ヘタルモノトスモ含有ス

卒業試験全點ハ終末大試験ニ於ケル本科全點ノ半數トス但航海術全點數ノ三分ノ二ハ實測點數ニ充ツ

第四十八條 大試験若クハ終末大試験ニ落第シタルモノ前試験ノ成績ヲ考査シ卒業ノ

目途アル者ニハ一學期ヲ延期修學セシム

卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行フモノトス

傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ前二項ニ準ス

前諸項ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十九條 前條ノ延期ハ一學期ニ止マルト雖トモ傷痍ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不攝生ニ依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第五十條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ニ際シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ受クルコト能ハサルトキハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

第五十一條 本校ニ教授用トシテ船艇ヲ附屬ス

第五十二條 本則第三十一條ニ掲クル賞牌及綬ノ制式ハ左圖ノ如シ但賞牌ハ佩用スルモノニアラス綬ノミ上衣右乳部ノ下方ニ附著スルモノトス (圖畧ス)

●勅令第二百十八號 (明治二十六年十一月二十九日)

海軍機關學校條例

- 第一條 海軍機關學校ハ之ヲ横須賀ニ置キ海軍機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育シ並ニ海軍少機關士候補生ニ技術ヲ專修セシムル所トス
- 第二條 海軍機關學校ノ學科ヲ本科及專科ノ二種トス
本科ハ生徒ノ修ムルモノトシ專科ハ造船、造機及造兵ノ三科ニ分チ本科卒業後其ノ科ニ特撰セラレタル海軍少機關士候補生ノ修ムルモノトス
- 第三條 專科ヲ修ムル海軍少機關士候補生ヲ專科生トス
- 第四條 生徒ノ學年ハ四箇年トシ專科生ノ學年ハ二箇年トス
但戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトアルヘシ
- 第五條 海軍機關學校ニ工場ヲ置キ實習ノ用ニ供ス
- 第六條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 校長 海軍機關大監
 - 副官 海軍大機關士
 - 教頭 海軍機關少監
 - 教官 海軍機關少監

廿七年九月勅令第百七十七號
參看
廿九年九月勅令第百十五號
參看

- 同 海軍大機關士
- 同 海軍教授
- 監事長 海軍機關少監
- 監事 海軍大機關士
- 軍醫長 海軍大軍醫
- 主計長 海軍大主計
- 前項ノ外海軍少軍醫及少主計ヲ置ク
- 第七條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス
- 第八條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス
- 第九條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
- 第十條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス
- 第十一條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス
- 第十二條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ專科生及生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ其ノ體育ノ事ヲ掌ル
- 第十三條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條 少軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ少主計長ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條 第六條ニ掲グル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等機關兵曹

海軍下士

海軍書記

海軍技手

第十八條 生徒ハ年齢十六年以上滿二十年以下ニシテ海軍機關官タランコトヲ志願スル者ニ就キ身體檢査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第十九條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

- 一 有妻ノ者
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
- 三 復權ヲ得サル家資分散者及破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘ

サル者若クハ其ノ相續人

第二十條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム

- 一 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
- 二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
- 三 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十四條 専科生ハ須要ニ應シ海軍少機關士候補生ヨリ海軍大臣之ヲ特撰ス

第二十五條 専科生ノ學用品ハ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第二十六條 海軍機關學校ニ機關工練習所ヲ附屬セシム

第二十七條 機關工練習所ハ掌機工及掌罐工ト爲ルヘキ機關兵曹及機關兵ヲ教育スル所トス

前項ノ外海軍上等機關兵曹ニ須要ノ學術ヲ教授スルコトヲ得

第二十八條 機關工練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 海軍機關少監

教官兼分隊長 海軍大機關士

第二十九條 機關工練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第三十條 機關工練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第三十一條 分隊長ハ所長ノ命ヲ承ケ部下ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且部員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第三十二條 第二十八條ニ掲クル職員ノ外機關工練習所ニ左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等機關兵曹

海軍下士

海軍卒

第三十三條 機關工練習所ニ於テ教育スル海軍機關手及火夫ハ機關工練習生ト稱ス

第三十四條 機關工練習生ト爲ルヘキ者ハ海軍機關手及三等火夫以上ニシテ左ノ諸

項ニ適合スル者タルヘシ

一 年齢三十五年未滿ニシテ身體强健ナル者

二 一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等火夫ヨリ起算ス

三 品行方正ニシテ技能アリ掌機工若クハ掌罐工タルニ堪フヘキ者

四 卒業後七箇年間現役ニ服スヘキ者

五 試験ニ合格シタル者

第三十五條 機關工練習生卒業シタルトキハ掌機工證狀若クハ掌罐工證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試験ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

前項ノ證狀ヲ得タル者ハ掌機工又ハ掌罐工ト稱ス

第三十六條 掌機工及掌罐工ニハ臂章ヲ附與ス

第三十七條 海軍機關學校ニ技手練習所ヲ附屬セシム

第三十八條 技手練習所ハ造船造機及造兵ノ技手出身志願者ヲ生徒ト爲シ之ヲ教育スル所トス

第三十九條 技手練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 海軍造船少監造兵少監造船大技士若クハ造兵大技士

廿七年十一月廿九日
勅令第九十號
第四號參看

- 教官 海軍造船少監造兵少監造船大技士若クハ造兵大技士
同 海造船技士若クハ造兵技士
- 第四十條 技手練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及
教育ノ責ニ任ス
- 第四十一條 技手練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス
- 第四十二條 第三十九條ニ掲クル職員ノ外技手練習所ニ教員トシテ技手ヲ置ク
- 第四十三條 技手生徒ト爲ルヘキ者ハ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ
- 一 年齢滿二十一年以上三十年未滿ノ者
 - 二 品行方正ニシテ將來技手タルニ堪フヘキ見込アル者
 - 三 海軍部内造船、造機及造兵ニ關スル工場ニ於テ三百日以上現業ニ服シタル者
 - 四 身體檢査及學術試驗ニ合格シタル者
 - 五 卒業後滿十箇年間海軍ニ從事スヘキ者
- 第四十條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ技手生徒ニ採用セス
- 一 徵兵令第二十八條ニ該ル者

- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
 - 三 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人
- 第四十五條 技手生徒ニシテ卒業證書ヲ有スル者ハ海軍技手トナルヘキ資格アルモノトス
- 第四十六條 技手生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
- 第四十七條 第十七條第三十二條及第四十二條ニ掲クル職員ハ海軍機關學校及兩練習所ニ通シテ勤務セシムルコトヲ得
- 第四十八條 本校ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル
- (別表)

海軍機關學校、機關工練習所、技手練習所定員表

校長	海軍機關大監	—	海軍上等機關兵曹	二
副官	海軍大機關士	—		
教頭	海軍機關少監	—		

機關	學	校	工練	習所	所習練手技
教官 海軍機關少監 海軍大機關士 海軍教授	監事長 海軍機關少監	監事 海軍大機關士	軍醫長 海軍大軍醫	主計長 海軍少軍醫	主計長 海軍大主計 海軍少主計
一 教頭ヲ以テ兼補ス 五 一 教頭ヲ以テ兼補ス 五 一 教頭ヲ以テ兼補ス	一 教頭ヲ以テ兼補ス 一 一 教頭ヲ以テ兼補ス	一 一 教頭ヲ以テ兼補ス 一 一 教頭ヲ以テ兼補ス	一 一 教頭ヲ以テ兼補ス 一 一 教頭ヲ以テ兼補ス	一 一 教頭ヲ以テ兼補ス 一 一 教頭ヲ以テ兼補ス	一 一 教頭ヲ以テ兼補ス 一 一 教頭ヲ以テ兼補ス
海軍下士	書記	海軍下士	海軍上等機關兵曹	海軍下士 海軍卒	海軍下士 海軍卒
七	三	十一 内七人ハ兼務	二	九	二

備考

本表定員ノ外本職アル者ヲ以テ教官ヲ兼務セシムルコトヲ得
 本表定員中海軍上等機關兵曹、海軍下士、技手、書記及海軍卒ハ機關學校、機關工
 練習所、技手練習所ニ通シテ勤務セシムルコトヲ得

●海軍省達第四百十號 (明治二十六年十二月三十日)

海軍機關學校規則

- 第一條 校長ハ教育上ニ關シ詮議ヲ要スルコトアルトキハ教頭教官中ヨリ指名會同シ會議ヲ開キ之ヲ審議決定ス可シ
- 第二條 校長ハ海軍機關學校條例第二十三條ニ該當スト認ムル者アルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上海軍大臣ニ具申スヘシ
- 第三條 校長ハ每學期及全學期ノ終ニ於テ會議ヲ開キ生徒ノ學術品行等ノ實況ヲ審議シ其優劣ヲ議決シ成績表ヲ調製ス可シ
- 第四條 校長ハ専科生採用ノ達アリタルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上生徒卒業者中ヨリ須要ニ應シ適任者ヲ指名シ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達ス可シ
- 第五條 校長ハ大試驗終末大試驗及卒業試驗ノ成績表ニ意見ヲ附シ教頭ノ意見書ヲ

添へ海軍大臣ニ進達ス可シ

第六條 校長ハ毎學期ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍大臣ニ進達ス可シ

第七條 校長ハ終末大試験ニ及第シタル者ニ海軍大臣ノ認可ヲ得實地練習トシテ軍艦乗組ヲ命ス但軍艦ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條 校長ハ卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第九條 校長ハ監事軍醫官主計官若干名ヲ被服糧食委員トナシ生徒ノ被服糧食ニ關スル事ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十條 校長ハ夏季冬季休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得

第十一條 校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ得テ毎年十一月生徒ニ入校ヲ命ス

第十二條 副官ハ庶務及官印ノ監守ヲ掌ル

第十三條 教頭ハ教務ヲ整理シ學術及教授上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ校長ニ具申ス可シ

第十四條 教頭ハ試験成績ニ意見ヲ附シ校長ニ差出ス可シ

第十五條 教官ハ學術上若クハ教授上ニ關シ意見アルトキハ教頭ニ開申ス可シ

第十六條 教官ハ試験ヲ行ヒタルトキハ試験成績ニ意見ヲ附シ教頭ニ出ス可シ

第十七條 監事長ハ生徒ノ容儀品行ヲ監督シ體育上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ

校長ニ具申ス可シ

第十八條 監事長ハ生徒ニ犯則者アルトキハ之ヲ取調へ意見ヲ附シ校長ニ具申ス可シ

第十九條 監事長ハ毎學期ノ終ニ於テ生徒ノ考科表ヲ校長ニ差出ス可シ

第二十條 監事長ハ准士官以下ノ勤怠ヲ監督シ犯則者アルトキハ之ヲ取調へ校長ニ具申ス可シ

第二十一條 監事長ハ下士以下ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス

第二十二條 監事ハ生徒分隊ノ長トナリ隊員ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス

第二十三條 監事ハ交番宿直ノ勤務ニ服ス

第二十四條 監事ハ毎學期ノ終ニ於テ隊員ノ考科表ヲ監事長ニ出ス可シ

第二十五條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ其事務ヲ分擔ス

第二十六條 生徒ハ分隊ニ編制ス

第二十七條 生徒ノ學期ハ四期トシ其第四期後半期ハ軍艦ニ於テ實地練習セシム

學期ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル

第二十八條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日迄ヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日迄ヲ冬季休業トス

第二十九條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年二月之ヲ告示ス

第三十條 生徒ノ試験ハ分チテ左ノ四種トス

一 小試験

二 大試験

三 終末大試験

四 卒業試験

第三十一條 試験ノ及第點ハ各科全點數十分ノ五以上トス

第三十二條 大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ學術優等ノ者ニハ本則第六十一條第一圖ノ賞牌及綬ヲ與フ

大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニシテ品行殊ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第六十一條第二圖ノ賞牌及綬ヲ與フ

第三十三條 前條第一項ノ賞牌ヲ有スル者ニシテ大試験又ハ終末大試験ニ落第スル

カ若クハ第二項ノ賞牌ヲ有スル者本校生徒懲戒則又ハ海軍懲罰令ニ觸ルコトアルトキハ之ヲ剝奪ス

第三十四條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第三十五條 大試験、終末大試験及卒業試験ノ成績表ニハ各學科ノ得點及席次ヲ掲載シ且品行點ヲ記入スルモノトス但品行點ハ席次ニ關係スルコトナシ

第三十六條 小試験ハ一學期ヲ適宜三回以上ニ分チ執行スルモノトス

第三十七條 一學期間ノ小試験得點ハ之ヲ其ノ期大試験若クハ終末大試験ノ得點ニ合算ス

大試験ノ全點ハ其ノ期各小試験ヲ通シタル合全點ト同數タル可シ

第三十八條 病氣其ノ他己ムヲ得サル事故アリ小試験ニ闕席スル者ハ別ニ試験ヲ行ハス而シテ大試験若クハ終末大試験成績ニ加フルニハ大試験若クハ終末大試験中ニアル該科目ノ得點ヲ該一學期間ノ小試験回數ニテ除シタルモノヲ以テス

第三十九條 大試験ハ第一期第二期及第三期ノ終ニ於テ行フモノトス

第四十條 大試験ニハ一學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十一條 大試験成績表ニ掲クル點數ハ大試験得點ト該一學期間小試験ノ得點ト

ヲ合セ二分シタルモノトス

第四十二條 終末大試験ハ第四期前半期ノ終ニ於テ行フモノトス

第四十三條 終末大試験ニハ前三期及第四期前半期間ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十四條 終末大試験成績表ニ掲クル點數ハ前三期ノ大試験成績點數ニ第四期前半期ノ小試験得點ト終末大試験得點トヲ加ヘ二分シタルモノトス但終末大試験全點ハ前三期大試験合全點ニ第四期前半期小試験ノ合全點ヲ加ヘタルモノト同數タル可シ

第四十五條 卒業試験ハ全學期ノ終ニ本校ニ於テ行フモノトス

第四十六條 卒業試験ニハ軍艦ニ於テ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十七條 卒業試験官ハ本校教官中ヨリ校長之ヲ命ス但試験問題ハ校長艦長ト協議ノ上定ムルモノトス

第四十八條 卒業試験成績表ニ掲クル點數ハ卒業試験得點ト終末大試験ノ成績點數トヲ加ヘタルモノトス但卒業試験ノ全點ハ第四期前半期小試験合全點ト同數タル可シ

第四十九條 大試験若クハ終末大試験ニ落第シタルモノ前試験ノ成績ヲ考査シ卒業ノ

目途アル者ニハ一學期ヲ延期修學セシム卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行フモノトス

傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ前二項ニ準ス

前諸項ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告ス可シ

第五十條 前條ノ延期ハ一學期ニ止ルト雖モ傷痍ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不攝生ニ依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第五十一條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ニ際シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ受クルコト能ハサルトキハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

第五十二條 専科生ノ學期ハ二期トシ各學期ノ後半期ハ各専科生専門ノ工場ニ於テ實習セシム

第五十三條 専科生ノ試験ハ左ノ二種トス

一 夏季試験

二、卒業試験

- 第五十四條 試験ノ及第點ハ各科全點數十分ノ五以上トス
- 第五十五條 夏季試験ハ毎年七月ニ於テ行フモノトス
- 第五十六條 卒業試験ハ全教程ノ終ニ於テ行フモノトス
- 第五十七條 卒業試験成績表ニ掲クル點數ハ卒業試験得點ニ夏季試験ノ得點ヲ加ヘタルモノトス

第五十八條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第五十九條 夏季試験若クハ卒業試験ニ落第シタル者ニハ尙一學期間延期修學セシムルコトヲ得

第六十條 本校ニ教授用トシテ船艇ヲ附属スルコトヲ得

第六十一條 第三十二條ニ掲クル賞牌ノ製式ハ左圖ノ如シ但賞牌ハ佩用スルモノニアラス綬ノミ上衣右乳部ノ下方ニ附著スルモノトス (圖畧ス)

●勅令第六十八號 (明治二十二年五月二十一日)

海軍志願兵徵募規則

第一條 海軍兵役ヲ志願スル者ハ本則ニ依リ服役セシム

第二條 志願兵ノ職名ハ左ノ如シ

水兵、軍樂生、水雷夫、火夫、工夫、木工、鍛冶、看病夫、厨夫
信號兵ハ所要ニ應シ水兵中ヨリ適當ノ者ヲ選ミ轉職セシム其轉職ニ關スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條 志願兵ニ徵募スルトキノ年齢定限ハ左ノ如シ

- 一 水兵、火夫ハ滿十七年以上二十一年未滿
- 二 木工、鍛冶、看病夫、厨夫ハ滿十七年以上二十六年未滿
- 三 水雷夫、工夫ハ滿十七年以上三十二年未滿
- 四 軍樂生ハ滿十四年以上十七年未滿

第四條 左ニ掲クル者ハ志願兵タルコトヲ許サス

- 一 陸軍ノ豫備役後備役ニ在ル者
- 二 徵兵令第二十八條ニ當ル者
- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者
- 四 刑事被告人トナリ裁判未決ノ者

海軍志願兵徵募規則

廿九年勅令第百三十三號參看
廿三年勅令第百九十四號參看

廿七年十
二月勅令
第二百一
號參看

- 五 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
- 第五條 志願兵ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス現役ハ八ケ年ニシテ入營ノ日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四ケ年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス水雷夫ハ前項ニ依ラス十二箇年間現役ニ服セシメ豫備役ニ服セシメス但第一年ニ於テハ六箇月以内第二年ヨリ十一箇年間ハ毎年二箇月以内在營セシメ其餘ノ時日ハ歸休セシム
- 第六條 服役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス
- 第七條 服役期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉アルトキ若クハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ
- 第八條 豫備兵ハ戰時或ハ事變ニ除シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス平時ニ在テハ演習ノ爲メ召集スルコトアルヘシ但餘人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ召集スルコトナシ
- 法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ
- 第九條 服役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ滿十二箇年ニ至ル迄豫備役ニ服セシム其永久

服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第十條 水雷夫、工夫ヲ除クノ外志願兵ノ現役中ハ家族アル者ニ限り其扶助金トシテ一日金貳錢七厘ヲ給ス

第十一條 志願兵徵募ノ爲メ別表ノ如ク志願兵徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

第十二條 志願兵徵募ノ人員ハ毎年海軍大臣之ヲ定メ各徵募區ニ配當シ鎮守府ヲシテ徵募セシム

但一ノ徵募區ニ於テ所要人員ヲ充ス能ハサルハ他ノ徵募區ヨリ其不足ヲ補充スルコトヲ得

附則

第十三條 舊規則ニ據リ徵募シタル者ノ服役年期ハ舊規則ニ據ル

第十四條 舊規則ニ據リ一箇月金壹圓七拾五錢ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年十月以後其現役滿期迄一日金五錢七厘ノ家族扶助金ヲ給ス

(別表)

海軍志願兵徵募區	所管鎮守府	府	縣	名
第一	橫須賀鎮守府	北海道	東京	神奈川 新潟 埼玉
		群馬	千葉	茨城 栃木 三重
		愛知	靜岡	山梨 岐阜 長野
		宮城	福島	巖手 青森 山形
		秋田		
第二	吳鎮守府	京都	大坂	兵庫 奈良 滋賀
		福井	石川	富山 鳥取 島根
		岡山	廣島	山口 和歌山 徳島
		香川	愛媛	高知
第三	佐世保鎮守府	長崎	福岡	大分 佐賀 熊本
		宮崎	鹿兒島	

●海軍省令第五號 (明治二十二年六月二十日)

海軍志願兵徵募規則

廿三年八月省令第八十三號
廿六年一月全第一號
廿九年全第五號
廿三年二月全第二號
廿四年一月全第一號
號參看

削除

第一條 海軍志願兵ヲ志願スル者ハ本則ニ依リ徵募ス但軍樂生ハ橫須賀鎮守府ニ於テ徵募シ水雷夫ハ別ニ定ムル規則ニ依リ徵募ス

第二條 志願兵徵募ノ數額ハ前年十二月ニ於テ告示ス

第三條 前條ノ告示アリタルトキ地方長官ハ徵募ノ年ニ於テ海軍志願兵徵募規則第三條ノ年齡ニ適スル者ヲシテ出願セシメ島司郡市長ヲシテ之ヲ調査セシメ島郡市及兵種ヲ區別シ志願人員表ヲ作り二月十日迄ニ之ヲ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府司令長官ニ移牒ス可シ

鎮守府司令長官ハ地方長官ヨリ志願人員表ヲ受ケタルキハ其寫ヲ海軍省ニ送付スヘシ島司郡市長ハ志願人ヲ調査スルニ當リ海軍志願兵徵募規則第四條ニ觸ル、者ナキヤ否ヤヲ審査ス可シ

第四條

第五條 鎮守府司令長官ハ三月一日後左ノ諸官ヲ派出シ志願人ヲ檢査セシム

海兵團徵募官

軍醫官

徵募官ニハ主帳ヲ付シ軍醫ニハ看護手ヲ付ス

海軍志願兵徵募細則

第六條 地方長官ハ徵募官ノ巡回ニ先タチ海軍兵役志願人検査所ヲ設ケ島司郡市長ニ達シ検査ノ準備ヲ爲サシム可シ

第七條 地方長官島司郡市長ハ徵募官ノ巡回ニ際シ属書記ヲ派出シ徵募ノ事務ヲ補助セシム可シ

第八條 海軍兵役志願人検査所ハ一地方廳管轄地ノ廣狹及志願人ノ多少ニ依リ検査ニ便ナル場所ヲ撰ミ概チ一郡市ニ一箇所ヲ設ク可シ

志願人十名ニ滿タサル郡市及一地方管轄地ヲ通シ十名ニ滿タサル地方ニ在テハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス但地形ニ依リ召集ニ便ナラサルトキハ地方長官ハ鎮守府司令長官ノ承認ヲ得特ニ検査所ヲ設クルコトヲ得

第九條 徵募官ハ地方長官ニ協議シ検査所巡回日割及毎日検査ヲ行フ可キ人員ヲ定メ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ検査ノ日時及集合スヘキ検査所ヲ豫メ志願人ニ達ス可シ

第十條 島司郡市長ハ徵募官ノ巡回日割ニ依リ志願人ノ検査ヲ受クヘキ日限及順序ヲ定メ志願人ニ告知シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願人ヲ引纏メ検査所ニ出頭セシム可シ

検査呼出ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ出頭シ難キ者アルモ之レカ爲ニ日時ヲ遷延シ更ニ検査所ヲ開クコトナシ但甲志願人乙地検査所ニ至リ検査ヲ願フ者ハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十一條 徵募官軍醫ハ検査所ニ於テ志願人ノ身體ヲ検査シ合格不合格ヲ定ム可シ
第十二條 志願人身幹左ノ定尺ニ達シ身體完全強健精神異狀ナキ者ヲ身体検査合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス

- 一 水兵、火夫、看病夫志願者ニ在テハ五尺二寸
- 二 軍樂生志願者ハ齒列齊正ニシテ十五年以上ニ在テハ五尺十五年未滿ニ在テハ四尺八寸

三 木工、鍛冶、厨夫志願者ニ在テハ五尺

第十三條 志願人ノ身體検査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分チ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ホスモノトス

第十四條 木工、鍛冶ニ志願ノ者ハ一箇年以上該職業ニ服セシ者ニ限リ採用ス其證明書ハ市町村長ヨリ巡回ノ徵募官ニ出ス可シ

第十五條 軍樂生、看護志願ノ者ハ身體検査ニ合格スト雖モ讀書作文算術ノ試験ニ

合格セサレハ採用セス

讀書ハ平易ナル假名交リ作文ハ通俗文算術ハ四則ヲ解シ得ルヲ以テ程度トス

第十六條 身體ノ檢査及讀書作文算術ノ試験ニ合格スト雖モ他ノ原因ニ依リ徵募官ニ於テ海軍兵ニ適セサル者ト認ムルトキハ採用セサルコトアル可シ

第十七條 檢査合格ノ者ニハ一地方ノ檢査ヲ了リタル後徵募官ヨリ島司郡市長ヲ經テ合格證書ヲ附與ス

合格證書ヲ附與セラレタル者採用以前ニ在テ轉籍、死亡、逃亡、公權停止、癡疾不具

等身上ニ異動ヲ生シタル者アルトキハ島司郡市長ハ地方廳ヲ經由シ速ニ其人名及

異動ノ事項轉籍者ハ其轉籍地ヲ詳記スヘシヲ當該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ但轉籍者ニ在テハ

同時ニ其旨ヲ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

鎮守府海兵團長他鎮守府徵募區ニ轉籍セシ者ノ通知ヲ受ケタルトキハ徵募官ヲシ

テ其兵種及檢査成績ヲ轉籍地ノ海兵團徵募官ニ通知セシムヘシ

第十八條 徵募官ハ徵募區内各府縣志願人ノ檢査ヲ了ルトキハ前條ノ異動人員ヲ加

除シ志願兵檢査總人員表ヲ作り海兵團長ヲ經由シ鎮守府司令長官ニ進達スヘシ

第十九條 鎮守府司令長官ハ合格者ノ數ヲ率トシ比例ヲ以テ採用スヘキ人員ヲ各地

方ニ配當シ海兵團長ヲシテ採用證書ヲ地方長官ニ送付シ且入營期日ヲ通知セシム

ヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ配當人員表ヲ作り第十八條ノ志願兵檢査人員表ト共ニ海軍省ニ送付スヘシ

但所管徵募ニ於テ合格ノ數所要ノ兵員ニ充タサルキハ他鎮守府司令長官ニ協議

シ補充スヘシ其採用証書送付方及入營期日通知ノ手續ハ補充ヲ要スヘキ鎮守府

所屬ノ海兵團長ヲシテナサシムルモノトス

第二十條 地方長官採用證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ島司郡市長ヲシテ之ヲ各自ニ

附與シ誓約書ヲ出サシムヘシ

第二十一條 地方長官前條ノ手續ヲ了リタルトキハ徵募兵員ヲ便宜ノ場所ニ集メ属

官又ハ市町村吏員ヲ附シ入營地ニ至ル期日ヲ計リ出發セシムヘシ但五人未滿ナル

トキハ單行セシムルコトヲ得

第二十二條 兵員入營ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ海

兵團長ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第二十二條乙 兵員入營スルトキハ直ニ身體檢査ヲ施行ス此檢査ニ於テ到底海軍兵

廿七年七月省令第七九號參看

役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ之レカ採用ヲ取消シ旅費ヲ給シテ歸郷セシメ海兵團長ヨリ採用取消書ヲ地方長官ニ送付シ之ト同時ニ本人ノ戸籍明細書及誓約書ヲ市町村長ニ返付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ更ニ補欠員ヲ同府縣内同兵種ノ合格者ヨリ徵募スルモノトス但同府縣内ニ於テ徵募スルコト能ハサルトキハ同鎮守府徵募區内ヨリ補ヒ同鎮守府徵募區内ヨリ補フコト能ハサルトキハ他鎮守府司令長官ヘ協議シ其徵募區内ヨリ補フコトヲ得

補缺徵募兵員ノ採用証書送付方及入營期日ノ通知其他ノ手續ハ一般ノ徵募兵員ニ準ス

第二十三條 地方長官ハ市町村長ヲシテ採用セラレタル者ノ戸籍明細書ヲ作ラシメ

第二十條ノ誓約書ト共ニ海兵團長ニ送付スヘシ

第二十四條 附添人旅費並ニ徵募兵員各自居住ノ地ヨリ入營迄ノ旅費ハ一般徵兵ノ定則ニ依リ官給ス但検査所ヘ往復ノ費用並ニ検査ヲ受クル爲メ滞在ノ費用ハ自辨トス

第二十五條 本規則中市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ區長若クハ區書記

之ヲ掌ル可シ

第二十六條 志願人員表合格證書採用證書誓約書及戸籍明細書採用取消書様式ハ左ノ如シ

附 則

本令第二條第三條第五條中ノ改正ハ明治廿九年十二月一日ヨリ施行ス

第一様式

(用紙美濃紙)

何府縣海軍兵役志願人員表

郡	市	兵種	水兵	軍樂生	火夫	木工	鍛冶	看病夫	厨夫	計	合計

第二様式 合格證書 (用紙厚紙)

寸五尺曲

右檢査合格ニ付此證書ヲ附與ス

第何海軍志願兵徵募區
府(縣)郡(市)町(村)住

氏名

明治 年 月 日

何鎮守府海兵團徵募官 氏名

名印

海軍 々 醫官 氏名印

曲尺七寸

第三様式 採用證書 (用紙厚紙)

寸五尺曲

右海軍水兵又ハニ徵募ス

第何海軍志願兵徵募區
府(縣)郡(市)町(村)住

氏名

明治 年 月 日

何鎮守府海兵團

曲尺七寸

第四様式 (用紙美濃紙四ツ切)

誓約書

海軍志願兵ニ御採用ニ付テハ御規則ヲ嚴守シ誓テ海軍ニ從事可仕候也

明治 年 月 日

氏名印

第五様式 戶籍明細書 (用紙美濃紙)

本管族籍	住 所	戶主カ 子弟カ	家族ノ名	其生年月日	生 年 月 日 生 國	氏 名	家族ノ名	其生年月日

右之通相違無之候也										
明治 年 月 日										
市町村長 氏 名 印										
海 軍										
本管族籍	住 所	氏 名	生 年 月 日	生 年 月 日	家 族 ノ 名	其 生 年 月 日	家 族 ノ 名	其 生 年 月 日	家 族 ノ 名	其 生 年 月 日
戶主カ	住 所	氏 名	生 年 月 日	生 年 月 日	家 族 ノ 名	其 生 年 月 日	家 族 ノ 名	其 生 年 月 日	家 族 ノ 名	其 生 年 月 日
子弟カ	住 所	氏 名	生 年 月 日	生 年 月 日	家 族 ノ 名	其 生 年 月 日	家 族 ノ 名	其 生 年 月 日	家 族 ノ 名	其 生 年 月 日

右之通相違無之候也

明治 年 月 日

市町村長 氏 名 印

第六様式 採用取消書 (用紙厚紙)

第何海軍志願兵徵募區
府(縣)郡(市)町(村)住
氏 名

右採用ヲ取消ス

明治 年 月 日

何鎮守府海兵團印

曲尺七寸

曲 尺 五 寸

●海軍省令第三號 (明治二十二年六月十二日)

海軍志願兵家族扶助金支給規則

第一條 家族扶助金ハ志願兵ノ家族(附籍ハ除ク)アル者ニ限リ入營ノ日ヨリ現役ヲ
離レタル日迄支給ス

海軍志願兵家族扶助金支給規則

廿三年二月省令第三號參看

第二條 一日金五錢七厘ヲ給スル者ニ再役ヲ許シタルトキハ再服役ノ日ヨリ一日金貳錢七厘ヲ支給ス

第三條 家族扶助金ハ每月末日「十二月ハ本人所轄廳(所轄廳トハ艦船團其他下士卒ヲ直轄スル廳ヲ云フ以下之ニ同シ)ニ於テ支給シ其日休暇ニ當ルトキハ前日ニ繰上ケ支給ス可シ

但服役場所ニ異動アルモ本文ニ同シ

第四條 准士官ニ昇級シタルトキハ辭令書拜受ノ日マテ免官免役セラレ死亡シ若クハ現役ヲ退キタルトキハ其當日マテ前條ノ支給定日ニ拘ハラス其際支給ス可シ

第五條 單身ノ下士卒家族ヲ有シタルトキハ其報告本人所在ノ廳ニ到達ノ日ヨリ家族扶助金ヲ支給ス

家族アル下士卒單身ト爲リタルトキハ其報告本人所在ノ廳ニ到達ノ日迄支給ス

第六條 海軍部内ニ於テ會計ヲ異ニスル廳ヨリ借用シタル者ノ家族扶助金ハ本廳發程ノ翌日ヨリ歸廳ノ當日迄借用廳ニ於テ支給ス可シ

海軍部外ノ各廳へ貸與シタル者ニハ發程ノ翌日ヨリ歸廳ノ當日迄支給セス
奏樂ノ爲メ一時貸與スル軍樂員ハ前二項ノ限ニアラス

二十三年四月省令第七號ヲ以テ刪除ス

第七條 家族扶助金ハ處刑罰收禁拘留若クハ遞傳護送中ノ者又ハ擅ニ艦船團若クハ職役ヲ離レタル者ニハ其當日ヨリ歸廳ノ當日迄之ヲ支給セス但無罪免訴若クハ無罪トナリタルトキハ之ヲ追給スヘシ

第八條 事故アリ追給若クハ追徴スヘキ者アルトキハ翌月以降ニ於テ支給若クハ控除スルコトヲ得但會計ヲ異ニスル廳ニ涉ル追徴追給ハ各其廳ニ於テ追徴追給スヘキモノトス

第九條 第十條

第十一條 死亡者若クハ逃亡者ニ支給スヘキ金額アルトキハ其家族ノ請求ニ據リ之ヲ下付スヘシ

第十二條 家族扶助金ヲ受クル者家族ニ異動アルトキ若クハ轉居轉籍シタルトキハ家族又ハ親族ヨリ地方廳ニ届出テ各地方廳ハ其都度其者在籍ノ鎮守府海兵團ニ報告ス可シ單身ノ下士卒家族ヲ有シタルトキ亦同シ

附則

第十三條 海兵團ニ於テ前條ノ報告ヲ得タルトキハ直ニ本人所在ノ廳ニ轉送ス可シ

第十四條 本年五月三十一日迄ハ從前ノ例規ニ據リ横須賀鎮守府ニ於テ取扱フ可シ

第十五條 舊規則ニ據リ一箇年金拾圓ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年六月一日ヨリ志願兵徵募規則ニ據リ一日金貳錢七厘ヲ支給ス

第十六條 舊規則ニ據リ一箇月金壹圓七拾五錢ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年六月一日ヨリ九月三十日迄日割計算ヲ以テ志願兵徵募規則ニ據リ支給スルモノトス
第十七條 前條ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年十月一日ヨリ志願兵徵募規則ニ據リ一日金五錢七厘ヲ支給ス

●海軍省達第六十八號 (明治二十七年五月一日)

(別紙)

第一書式

服役停年ニ基ク退職及免除恩給請求書
但二通差出スヘシ(以下就レモ二通ヲ差出スヘシ)

(用紙美濃紙)

恩給請求書

某儀

何年何月何日(被任何官)(何々被申付)爾來何箇年服役何年何月何日
何々ニ依リ(豫備)(後備)(退役)(免官)(免役)被仰付候ニ就テハ軍人
恩給法第何條相當ノ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也

元(軍艦何々)(某團何々)(休職)
 何府何市區何町何番地華族(平民)
 何縣何郡何村何番地寄留
 何縣何郡何村何番地寄留
 職官位勳爵氏名印

年月日

海軍大臣爵氏名殿
 卒ハ舊所管長官ニ宛ツヘシ(以下之ニ同シ)

附属スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

第二書式 傷痍疾病ニ基ク恩給請求書(用紙美濃紙)

恩給請求書

某儀

何年何月何日(被任何官)(何々被申付)爾來何箇年服役何年何月何日
 (傷痍)(疾病)ノ故ヲ以テ(退役)(免官)(免役)被仰付候ニ候テハ軍人
 恩給法第何條ニ據リ恩給下賜證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

恩給出願書式

年月日

官位勲爵氏

名印

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

現認證書 (第五書式若クハ公文ノ寫若クハ口供書)

負傷證書 (第六書式)

診斷證書 (第七書式)

但公務ニ因ラサル傷痍疾病ニ係ルモノハ履歷書並診斷證書ノミ添付スヘシ

第三書式 傷痍疾病重症ニ趣キ恩給ノ増加ヲ請求シ若クハ其恩給ヲ更ニ請求ノトキ

(用紙美濃紙)

恩給請求書

某 儀

何年何月何日ヨリ(傷痍)(疾病)ヲ故ヲ以テ(恩給及負傷増加恩給下賜)(現役ヲ離レ)候處爾來何々ニ依リ遂ニ重症ニ赴キ別紙診斷書ノ通ニ候間御檢査ノ上軍人恩給法第何條ニ據リ恩給下賜證據書類相

添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官位勳爵氏

名印

海軍大臣爵氏名殿

附属スヘキ證據書類

病況書 原因經過療法ヲ詳記シタルモノ

診斷證書 (第七書式) 海軍々醫官ノ診斷證書若シ軍醫官ノ診斷ヲ受クルコト能ハサル場合ニ限リ地方醫師ニ名連署捺印シタルモノ

更ニ恩給ヲ請求スルモノハ

履歷書 (第八書式)

現認證書 (第五書式若クハ公文ノ寫若クハ口供書)

負傷證書 (第六書式)

病況書 (同右)

診斷證書 (同右)

第四書式 (用紙美濃紙)

恩給出願書式

給助金請求書

某儀

何年何月何日被任何官職來何箇年勤績何年何月何日現役ヲ離レ候ニ就テハ軍人恩給法第何條相當ノ給助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

年月日

肩書第一書式ニ同シ
官位勳爵氏

名印

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

遺族ヨリ請求ノトキ

給助金請求書

故官位勳爵氏名

右現役中何年何月何日死去仕候ニ就テハ軍人恩給法第何條ニ據リ給助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

故官位勳爵氏名遺族

氏名印

年月日

海軍大臣爵氏名殿
附属スヘキ證據書類
履歷書 (第八書式)

備考 死者ニ對スル給助金ハ遺産相續人ニ賜ルヘキモノニ付嗣子又ハ戸主ヨ
リ請求スヘシ

第五書式 (用紙美濃十三行野紙)

現認證書

右者明治何年何月何日何時何分何所ニ於テ俱ニ砲撃ノ際(何々演習
ノ際何々ニ由リ何々ニ觸レ)(何々ニ由リ何物ノ爲メニ)何部ニ何傷
ヲ受クルヲ現認ス

所 職官轄 氏 名
所 職官轄 氏 名
年 月 日 氏 名 印

罹病ニ係ル現認證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

備考 本證書ハ勉メテ現況ヲ詳記スヘシ又
現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ作ルヘシ

恩給出願書式

第六書式

(用紙美濃十三行罫紙)

負傷證書

所轄官 氏 名 年 齡

右者明治何年何月何日何時何分何所ニ於テ何ノ際何ノ爲ニ何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒタルニ由リ診査スルニ何ノ部ニ於テ大サ幾許(何部ヨリ何部ニ亘ル長幾許幅幾許)深サ幾許ノ(何部ニ達スル)何創アリ創縁ハ銳利ニシテ(不正ニ挫斷シテ)創面ヨリ著シク出血シ(微ニ出血シ)創底ニ於テ何大ノ骨片折斷シテ移動スルヲ認ム(骨膜ハ僅ニ剝離スレトモ骨折ヲ認メス或ハ何器官ニ損傷ヲ認メス)因テ止血法ヲ施シ(何動脈ヲ結紮シ)骨片ヲ拔除シ創面ヲ洗除シ創縁ヲ縫接シテ防腐繃帶ヲ施ス

右證明ス

明治 年 月 日 職官(軍醫官) 氏 名 印

罹病證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

第七書式

(用紙美濃十三行罫紙)

診斷證書

所轄官 氏 名 年 齡

右者明治何年何月何日何所ニ於テ何ノ際何ノ爲ニ何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒ何年何月何日ヨリ施療(何病院ニ入院施療)ノ處何年何月何日何ノ手術ヲ行ヒ何年何月何日傷痕治癒スト雖モ何ノ部位ヲ失ヒ(何部ノ知覺若クハ運動痲痺ヲ胎シ何ノ機能缺如シ若クハ幾許碍ケラレ或ハ周圍ノ癍痕若クハ關節面ノ癒着若クハ何ニ由リ何關節ニ強直若クハ彎縮ヲ胎シ全ク伸縮機能ヲ缺キ若クハ伸展及屈曲ノ角度幾許ニ過キス或ハ視力餘リ缺如シ若クハ幾許ノ視力ヲ失ヒ或ハ聽覺缺如シ若クハ聽覺ヲ失ヒ)永久服役(或ハ現役)ニ堪ヘ難キ者ト診斷ス

明治 年 月 日 職官(軍醫) 官 氏 名 印

臨監鎮守府軍醫長 官 氏 名 印

疾病ニ係ル診斷證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

備考 入院患者ニアリテハ病院長之ヲ作ルモノトス

第八書式

(用紙美濃紙)

履歷書	
何府何市區何町何番地士族(平民)	何縣何市區何町何番地寄留
職官	氏名
何年何月何日生	
明治何年何月何日	海軍何等兵(夫)申付(任何官)(任官ノ文官ニ係ルモ廳ヲ任官ノ下ニ一々記載スヘシ)
同	何々ノ科海軍刑法第何條ニ依リ輕禁錮何日
同	任海軍二等兵曹
同	某國(外)航海但軍艦(警備ノ役務ヲ帶ヒテ航海シ)但軍艦何乘組(タル時ハ其事由ヲ附記スシ)
同	某地從軍又ハ何團隊
同	其他、歸着
同	任海軍上等兵曹
同	任海軍少尉
同	叙正八位
同	任海軍大尉
同	叙高等官何等

同 叙勳何等賜何々章
 同 何々ニ依リ(豫備)(後備)(退役)(免官)(免役)

右之通相違無之候也
 年 月 日
 官位勳爵 氏 名 印

死者ノ遺族へ下付スヘキ履歷書モ之ニ準ス
 但與書ヲ要セス又用紙ハ美濃十三行罫紙トス

第九書式 恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ若クハ戰時召集ニ應シ(用紙) 美濃紙
 滿一年以上服役シタル者其恩給増加ヲ更ニ請求ノトキ

恩給請求書

某儀

何年何月何日(豫備)(後備)被仰付(被仰付)
 何年何月何日(現役)就キ(被命)(退職)(免除)恩給下賜相成居候處
 何年何月何日(何々ノ役ニ付召集ヲ命セラレ)爾來服役
 何年何月何日(何々ニ依リ)豫備(後備)(退役)(免官)(免役)被仰付
 (召集ヲ解カレ)候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ更ニ相當ノ恩給増加下
 賜相成度證據書類相添此段請求仕候也

何府何市區何町何番地士族(平民)
 何縣何市區何町何番地士族(平民)

何府市區町何番地寄留
何縣何郡何村

官位勳爵氏名 ①

海軍大臣爵氏名殿

卒ハ舊所管長官ニ宛ツヘシ

附屬スヘキ證據書類

履歷書(出身以來再ヒ現役ヲ離レ若クハ召集ヲ解
カレタルトキマテノ全文ヲ記載スヘシ)

●大藏省令第二十四號 (明治廿三年十月一日)

本年法律第四千三號第四十四號第四十五號ニ據リ恩給及扶助料ヲ受クルモノハ每期
受領ノ片本人生存證書ヲ恩給証書ニ添ヘ差出スヘシ

●勅令第四百四十五號 (明治廿七年八月十七日)

軍人恩給法第四十條ニ該當スル海軍候補生及生徒ノ恩給額ニ關シテ候補生ノ階級ハ
判任官等級一等トシ將校生徒及機關生徒ノ階級ハ判任二等トス

●海軍省令第五號 (明治廿八年十月廿九日)

明治二十七八年ノ戰役ニ關シ明治二十八年勅令第百十五號ニ依リ海軍所屬員ニ賜與
セラルヘキ一時賜金ハ海軍省ニ於テ交付ノ手續ヲナスヘシ但其金員ハ明治廿八年勅
令第百三十七號ニ據リ五拾圓未滿ノ端數ヲ除クノ外軍事公債證書ヲ以テ交付 地方ニ
給者ニハ地 方ニ在ル受領者ニ於テ若シ現金ト交換ヲ望ムトキハ該軍事公債證書ニ交換請求
書ヲ添ヘ其受領ノ當日限り海軍省ニ願出ツ 地方ニ在ル受領者ヘシ

●勅令第百八十一號 (明治二十三年八月二十九日)

屯田兵條例

第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地
ニ配置シテ其警備ニ充ツ

第二條 屯田兵ハ兵農相兼ヌルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及
開墾耕稼ニ從事セシム

第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ召募シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシ
ム

第四條 屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ現役八箇年後備役十二箇年トス
後備役中ハ戰時若クハ時變ニ變シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集シ及
簡閱點呼ヲ爲ス

屯田兵ニシテ召集ノ條件ニ違背シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セザ
ル者ハ兵役ヲ免ス

第五條 後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ時變ニ際シ召集ス

第六條 第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演
習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延スコトアル可
シ

附則

第八條 明治二十七年以前ニ召集シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム

一 明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召集シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役
ニ服セシメ滿期ハ九箇年間後備役ニ服セシム

一 明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召集シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備

役ニ服セシメ滿期後召集ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

一 明治二十一年ニ召集シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿
期後召集ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

一 明治二十二年以後明治二十四年以前ニ召集シタル者及明治二十五年以後明治二
十七年以前ニ召集シタル騎兵、砲兵、工兵ハ三箇年間現役ニ四箇年間豫備役ニ十
三箇年間後備役ニ服セシム

一 明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召集シタル歩兵ハ七箇年間現役ニ十三箇
年間後備役ニ服セシム

第九條 前條ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル

第十條 豫備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習其ノ他
特ニ公務ニ服セシムル爲メ召集ス

●陸軍省令第六號 (明治二十七年五月二十一日)

屯田兵召集規則

第一條 屯田兵ハ志願者中召集検査ニ合格シタル者ヨリ採用シ毎年四月ニ於テ移住

セシム

第二條 屯田兵召募検査ハ其年ノ召募區域内ニ於ケル大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ行フ

第三條 屯田兵召募區域及其人員ハ召募スヘキ前年ニ於テ之ヲ告示ス

第四條 屯田兵志願者ハ前條ノ告示ニ依リ其年ノ八月三十一日迄ニ第一書式ノ願書ニ第二第三第四書式ノ履歷書、戶籍明細書、家族身體證明書ヲ添ヘ市町村長東京 都 大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ倣フニ差出スヘシ

第五條 市町村長前條ノ願書ヲ受領シタルトキハ第五書式ニ依リ志願者ノ身元證明書ヲ作り願書ニ添ヘ府縣廳町村長ハ島司郡長ヲ經テニ差出シ府縣廳ニ於テハ之ヲ審査シ更ニ

第六書式ノ連名簿ヲ作り九月三十日迄ニ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附シ願書、履歷書、戶籍明細書及家族身體證明書ハ同時ニ屯田兵司令部ニ發送スヘシ

第六條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前條ノ連名簿ヲ受領シタルトキハ島司郡市長ニ協議シ検査場ヲ定メ検査日割ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者ヲ引纏メ検査場ニ出頭セシムヘシ

但志願者ニハ第二書式履歷書ノ寫ヲ携帯セシムヘシ

志願者検査場ヘノ往復旅費並滞在日當ハ之ヲ給セス

第七條 屯田兵志願者願書ヲ差出シタル後自己及家族ノ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ書面ヲ以テ志願者ノ死亡失踪處刑市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ届出ヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前項ノ届書ヲ受領シタルトキハ之ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ

第八條 屯田兵召募検査終レハ大隊區司令官警備隊區司令官ハ第八書式ノ検査成績表不合格者ヲ除ク及第九書式ノ里程表ヲ作り十二月三十一日迄ニ到達ノ時日ヲ測リ之ヲ屯田兵司令官ニ送附スヘシ但里程表ノ調製ハ第十附表屯田兵集合地名表ニ基クヘシ

屯田兵司令官ハ検査成績表及第五條ノ書類ヲ審査シ採用スヘキ者ト豫備員トヲ定メ其人名簿並採用スヘキ者ノ集合地ヘ參集期日ヲ大隊區司令官警備隊區司令官ニ通知シ同官ハ第六條ノ手續ニ依リ之ヲ本人ニ告達シ又府縣廳ニ通知スヘシ

第九條 屯田兵移住ノ際ハ府縣知事吏員ヲ其集合地ニ派遣シ屯田兵受領員ニ引渡サ

シメ且其宿泊乗車乗船等ニ係ル取扱ヲ補助セシムヘシ

第十條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ資格ハ左ノ如シ

一 年齢 満十七年以上二十五年以下 召募年ノ四月一日ヲ以テ算ス

但陸軍各兵科豫備後備在役ノ下士上等兵ハ満三十年以下ノ者

二 身長 五尺以上ノ者

但年齢二十年未滿ニシテ發育ノ見込アル者ハ四尺九寸以上

三 體質 强健ニシテ兵農ノ動作ニ堪ユル者

第十一條 前條ノ資格アル者ト雖左ノ事項ニ該ル者ハ採用セス

一 陸海軍現役兵及海軍豫備兵後備兵

二 一家中耕稼ノ勞働ニ堪ユル強壯者 養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時 本人ヲ併セテ三人ニ滿タサルモノ

三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者並其處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者

四 素行修マラサル者

五 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

六 養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

七 召募区域内ニ本籍ヲ定メ第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

第十二條 屯田兵志願者ノ身體検査ハ陸軍志願兵身體検査規則ニ依ル屯田兵志願者身體検査醫官ハ検査場最寄衛戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシム之カ爲メ大隊區司令官ハ豫メ検査日割及検査場ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ軍醫ノ派遣ヲ請求スルモノトス

前項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス

第十三條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ハ直ニ家族 成年以上ノ者ト共ニ第七書式ノ誓文

書ヲ作り市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ差出スヘシ

前項ノ誓文書ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ取纏メ屯田兵司令官ニ送附スルモノトス

第十四條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ支度料旅費日當及運搬料ハ屯田兵司令部ヨリ大

隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ送附スヘシ
大隊區司令部又ハ警備隊區司令部前項諸費ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ニ支給スヘシ

第十五條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ニシテ移住前戸主トナラサル者若クハ第十一條ニ該當シ又ハ失踪死亡等ノ事故ヲ生シタルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其採用ヲ取消シ豫備員ヲ以テ之ヲ補充シ其旨ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ但其採用ヲ取消シタル者既ニ支度料旅費日當及運搬料支給後ニ係ルトキハ之ヲ返納セシムヘシ

第十六條 疾病其他正當ノ事故ニ由リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ定メ疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ戸主ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ移住ノ猶豫ヲ願出ヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ就キ旅費日當ヲ受領シ直ニ出發スヘシ
大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ前項ノ許可ヲナストキハ其旨ヲ屯田兵受領員ニ通報スヘシ

第十七條 臨時屯田兵ノ缺員ヲ補充スルノ必要アルトキハ屯田兵服役者ノ家族中男子ニシテ分籍ヲ志願スル者ノ内ヨリ採用スルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ在テハ本規則第十條乃至第十三條ノ例ニ準據ス

第十八條 移住者ノ荷物ハ一戸ニ付八箇以内トシ一箇ノ重量ハ九貫目以内トス但左ニ掲クル物件ハ携帯スルヲ許サス

- 一 長持若クハ之ニ等シキ體積ノモノ
- 二 大形ノ箆筒若クハ之ニ類スルモノ
- 三 漬物若クハ流動物ヲ入レタル樽ノ類
- 四 甕若クハ臼類
- 五 危險物
- 六 以上掲クルモノ、外取扱ノ困難ナルモノ

附則

第十九條 本令施行期限以前從前ノ規定ニ依リ願書ヲ府縣廳ニ差出シタルモノハ之ヲ受理ス

第二十條 市制町村制實施セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ

於テ之ヲ行フヘシ

第一書式 用紙美濃紙

屯田兵服役願

某儀

屯田兵志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度然ル上ハ家族一同北海道へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ可申仍テ別紙履歷書戶籍明細書及家族身體證明書相添へ此段奉願候也

年號月日

族籍(戶主ニ非ル者ハ某子弟等)

產地

姓 名 印

年號月日生
何年四月何年何箇月

屯田兵司令官姓名殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓 名 印

一志願者戶主ニ非ルトキハ戶主連署スヘシ

第二書式 用紙美濃紙

履歷書

族籍(戶主ニ非ル者ハ某子弟等)

何年何月種痘(天然痘)

姓 名

年號月日生
何年四月何年何箇月

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學校(塾)入學何科卒業(何學修業)

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學研究(商業)ノ爲メ何處留學(滞在)

一何年月日何官(何職)任(免)何省何府縣廳

一何年月日ヨリ何業ニ從事何年間繼續後何々ニ轉業目下何々業

一何年月日何々ニ依リ賞典何々下賜

一何年月日何々ノ科ニ依リ何罰申付ラル

右之通相違無之候也

年號月日

本人 姓 名 印

一書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノハ悉ク記スヘシ

一志願者戶主ニ非ルトキハ戶主連署スヘシ

屯田兵召募規則

第二書式

用紙美濃紙

戶籍明細書

何府(縣)何市(郡)何町(村)何某女	祖母	同	同上	某
何府(縣)何市(郡)何町(村)何某女	實(養)父	同	同上	某
何府(縣)何市(郡)何町(村)何某女	實(養)母	同	同上	某
何府(縣)云々	妻	同	同上	某
(養子)ナレハ何年何月入籍	何男(何女)(養子女)	同	同上	某
陸海軍現役兵海軍豫後備兵	兄(弟)(姉)(妹)	同	同上	某
ナレハ何年何月日何役滿期		同	同上	

陸海軍現役兵海軍豫後備兵
ナレハ何年何月日何役滿期

兄(弟)(姉)(妹) 某

右之通ニ候也

年號月日

本人 姓 名 印

右取調候處相違無之候也

年號月日 何府(縣)何市(何郡)何町(村)長姓 名 印

一 戶主ト異ナル業務ニ從事スル者又ハ特別ノ技能ヲ有スル者ハ名ノ上ニ何業ニ從事何々ヲ能クスル等記スヘシ

一 志願者戶主ニ非ルトキハ戶主連署スヘシ

第四書式

家族身體證明書

一 父 某 體格強壯ニシテ勞働ニ堪ユ○何歳ノ時何病ニ罹リシコトアリ

一 妻 某 體格稍虛弱○幼時ヨリ大患ニ罹リシコトナシト雖モ四年来歇斯的呈症ヲ患フ○現今時々頭痛胃瘵ノ症アリテ爲メニ連日業務ヲ廢スルコトアリ

一弟 某 體格強壯○生來大患ニ罹リシコトナシ○本月何日來肺
義膜炎ニ罹リ目下何々ノ症アリ豫後ト知シ難シ
(以下前例ニ倣フ)

右診查ノ上及證明候也

年號月日

住所族籍

姓

名 印

右之通ニ候也

族 籍

本人 姓

名 印

年號月日

一本書ノ家族ハ十五歳以上六十歳未満ノ者ニ限ル

第五書式

身元證明書

族籍(戸主ニ非ル者ハ某子弟等)

姓

名

- 一 身代限ノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ(身代限ノ處分ヲ受ケシモ既ニ負債ノ辨償ヲ了ル)(家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復權ヲ得タリ)
- 一 現今負債ナシ(現今幾許ノ負債アリト雖モ移住前ニ辨償シ得ル)

見込ナリ)

- 一 陸海軍現役兵海軍豫備兵後備兵ニ非ラス
 - 一 禁錮ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
 - 一 品行方正
 - 一 召募区域内ニ本籍ヲ定メ出願時期迄ニ已ニ一箇年ヲ經過セリ
 - 一 入籍後出願時期迄ニ己ニ一箇年ヲ經過セリ(養子ナレハ)
 - 一 家族中禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ノ有無(某何々ノ罪ニ由リ何年或ハ目下拘留中、刑期中等)
 - 一 右之通ニ候也
- 年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓 名 印

第六書式

屯田兵志願者連名簿

產地	住所	族籍	家族人員	誕生	姓名
何縣何市何府何市何町	何府何市何郡何町何村	士族	大 中 小	何年何月何日	戸主 何 某
			三 一	〇	

何縣何郡何縣何郡	平民	四	一	一	何年何月何日	某二男
何村何町						何 某

一 家族人員ノ區畫中大ハ十五歲以上六十歲未滿ノ者ヲ記シ中ハ六十歲以上及七歲以上十五歲未滿ノ者ヲ記シ小ハ七歲未滿ノ者ヲ記スヘシ
 一 志願者戶主ニ非ルトキハ姓名ノ肩ニ戶主ノ續柄(某子弟等)ヲ記スヘシ
 第七書式 用紙美濃紙

誓文

今般何某屯田兵ニ御採用相成候ニ付テハ家族一同北海道へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ誓テ兵農ニ從事可仕且服役中ハ決シテ自ラ免役ヲ請願致シ候等ノ儀仕問敷尙ホ左ノ條々堅ク相守リ聊カ違背不仕候仍テ家族連署誓文如件
 一 服役中年齡滿限若クハ死亡其他ノ事故ニ由リ免役ト爲ルトキハ子弟_{子弟ナキトキ}ハ養子弟等ニ於テ家名相續致シ本人ノ服役殘期間兵

役ニ服シ可申事

二 戶主ハ家族ヲ訓戒誘導シ家族ハ戶主ヲ輔ケ一家ノ業務ニ從事シ特ニ戶主出務ノ間ハ家族中ノ年長者ニ於テ一切ノ取締ヲ爲シ戶主ヲシテ内顧ノ憂ナカラシムル様可致事
 三 官給ノ土地ヲ墾成セサル間ハ一意農業ニ從事シ許可ヲ得スシテ他所ニ寄寓シ或ハ他ノ事業ニ從事スル等ノコト致ス間敷事
 四 時々ノ御達並ニ訓旨等ハ家族ニ至ルマテ嚴重ニ遵守可仕事

年號月日
 本人 何 某印
 同人父 何 某印
 同人母 何 某印(拇印)

第八書式

検査成績表		何大隊區(警備隊區)	
住所	職業	兵役	年齢
何郡何村農	豫備何年何甲(乙)	(後備)箇月種	等位
身長	教育ノ程度	參事	考項
五尺二寸	上(中)志操確實	下(不)何々	何 某
姓名	何 某		

第九書式

一 職業ニ兼業アル者ハ之ヲ併セ記スヘシ
 一年齡ハ召募年ノ四月一日ヲ以テ計算スヘシ
 一 教育ノ程度ハ高等小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ上トシ尋常小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ中トシ稍簡易ノ算筆ヲ爲シ得ル者ヲ下トシ全ク之ヲ能クセサル者ヲ不ト記スヘシ
 一 參考事項ニハ本表ニ例ヲ示スノ外町村中名望アル者又ハ郷黨ニ指彈セラレ者其他召募上參考トナルヘキモノト認ムル事項ヲ記スヘシ

里程表

何大隊區(警備隊區)

住所	集合地	住所ヨリ集合地ニ至ル經路	同上里程	姓	名
何郡何村	地名	何地ニ出テ何道通	何十何里	何	某

第十附表

屯田兵集合地名表

師管	大隊區	警備隊區	集合地
第一	麻布 濱崎 高野 長倉 佐野 水戸 本郷 宇都宮 仙臺 福島 盛岡 青森 山形		橫濱
第二			酒田

第五		第四						第三															
尾	松	山	廣	福	神	岡	姫	京	大	和	大	福	富	金	靜	豊	岐	津	名	柏	新	秋	
ノ	江	口	島	知	山	戸	路	都	津	山	坂	井	山	澤	岡	橋	阜	屋	古	崎	田	田	
尾	境	馬	廣	宮	神			敦		伏	清	四		新		土							
ノ	道	關	島	津	戸			賀		木	水	日		瀨		崎							

第六																						
長	福	佐	小	鹿	宮	大	熊	高	德	丸	松	長	博	門	鹿	細	大	三	高	德	多	
崎	岡	賀	倉	兒	崎	分	本	知	島	龜	山	崎	多	司	兒	島	分	角	知	島	度	
對												對										三
島												島										ツ
												長										ケ
												崎										濱

一本表中盛岡大隊區ノ内宮城登米本吉栗原ノ三郡ハ萩ノ濱ニ其他ノ郡市ハ青森トス

一一師管中某大隊區ヲ限リ召募スルトキハ臨時集合地ヲ指定スルコトアルヘシ

一人員寡少若クハ其他ノ都合ニ由リ必要ト認ムルトキハ屯田兵司令官一時本表ノ集合地ヲ變更スルコトヲ得

●法律第七十九號 (明治二十三年九月五日)

屯田兵土地給與規則

第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給ス其下士ニ任セラレタルドキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス

屯田兵出身ニアラサル下士ニシテ屯田兵條例ニ例リ服役スル者ニハ凡ソ二萬坪ノ土地ヲ給ス

第二條 移住ノ屯田兵二百五十戸以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應ジ其ノ村ノ公有財産トシテ土地ヲ給ス

公有財産ノ管理用并ニ開墾ノ事ハ屯田兵司令官ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若ハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス

第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル

部分ハ沒收ス

廿八年三月勅令第二十五號
參看

第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ給與シタル土地ヲ沒收ス

前項ニ依リ土地ヲ沒收スルトキハ給與ノ建物及其ノ土地ニ定著スル給與ノ物件併セテ之ヲ沒收シ其ノ他ノ建物及物件ハ期限ヲ定メテ之ヲ取除カシム若期限迄ニ取除カサルトキハ競賣ニ附シ其ノ費用ヲ引去リ殘額ヲ交付ス

第七條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ之ニ滿ツル迄追給ス

其ノ屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル

第八條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵及屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十三年マテニ召募シタルモノニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル
第九條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレタルトキハ給與ノ土地ハ其ノ兵役相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

三十年三月法律第三十一號
參看

第十條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ土地ハ家督相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキ之ヲ其ノ服役者ニ移スモノトス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其ノ間家族ヲシテ其ノ土地ヲ保管セシム

第十二條 此ノ規則中屯田兵ニ關スル規程ハ第十條第一項及第十一條ニ依リ給與ノ土地ヲ所有若クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス

●勅令第九十六號 (明治二十七年七月十一日)

屯田兵移住給與規則

第一條 屯田兵及其ノ家族移住ノ際ハ支度料、旅費日當、運搬料トシテ左ノ金額ヲ給與ス

- 一 支度料 一戸ニ付五圓
- 二 旅費日當 一人一日ニ付三十錢 七歳未満ハ半額
- 三 運搬料 一戸一日ニ付二圓六十錢

第二條 旅費日當及運搬料ハ一日行程ヲ十里詰トシ給與ス

一里以上六里未満ハ半額、六里以上ハ全額ヲ給與ス但一海里ハ陸路十六町九分七厘五毛ニ改算ス

第三條 集合地ヨリ移住地迄ノ旅行ニ關スル費用ハ官ニ於テ仕拂フモノトス

第四條 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ居残り若クハ途中ニ於テ滞在シ他日移住地ニ至ル迄ノ旅費日當及運搬料ハ移住地迄順路ニ依リ給與ス

疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ途中ニ於テ滞在シタルトキハ一人一日ニ付三十錢 七歳未満ハ半額ノ日當ヲ給與シ其ノ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ醫師又ハ病院ニ於テ治療ヲ受ケタル者ハ診斷料、治療費及入院料 入院料ヲ給與スルトキハ日當ヲ給與セスハ實費ヲ給與ス但

傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ノ診斷書、其ノ他ノ事故ニ由リタル者ハ憲兵、警察官若クハ市町村吏員ノ證明書ヲ差出スヘシ

第五條 屯田兵移住シタルトキハ兵屋、井戸 属具、家具、夜具、農具、種物、扶助米及鹽菜料ヲ給與ス但井戸及属具ハ實際ノ景况ニ由リ二戸以上ニ一箇ヲ給與スルコトヲ得

住移後滿三箇年間に於テ變災ノ爲メ前項ノ兵屋、家具、夜具及農具ヲ亡失若クハ破

損シ其ノ用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ更ニ之ヲ給與スルコトヲ得

第六條 家具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

- 一 鍋 大小 各一箇
- 二 茶碗 五箇
- 三 手桶 一荷
- 四 小桶 一組
- 五 擔桶 一荷
- 六 柄杓 一箇
- 七 燈具 一箇
- 八 鐵瓶 一箇

第七條 夜具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

- 一 四布 三枚
- 二 三布 二枚

第八條 農具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但農業ノ趣ヲ異ニスル移住地ニ在テハ他ノ物品ヲ換給スルコトヲ得

- 一 鍬 大小 各一挺
 - 二 唐鍬 大二挺 小一挺
 - 三 砥 荒砥、中砥、鎌砥 各一箇
 - 四 山刀 一挺
 - 五 鑿 二挺
 - 六 鑿 一挺
 - 七 鋸 大小 各一挺
 - 八 鎌 柴刈、草刈 各一挺
 - 九 筵 二十枚
 - 十 熊手 二挺
 - 十一 培養桶 一箇
- 右ニ掲クル外四戸ニ付唐箕一箇六戸ニ付臼杵一箇ヲ給與ス
- 第九條 種物ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但其ノ土地ニ適セサルトキハ他品ヲ換給シ又時宜ニ依リ代金ヲ給與スルコトヲ得
- 一 麻種子 一斗

- 二 大 麥 一 斗
- 三 小 麥 一 斗
- 四 大 豆 一 斗
- 五 小 豆 五 升
- 六 馬 鈴 薯 四 斗
- 七 蠶 卵 紙 四 半 枚

第十條 扶助米及鹽菜料ハ移住地到着ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年間に左ノ區分ヲ以テ
 毎月之ヲ給與ス但端日數ノ場合ニハ其ノ月ノ日數ヲ以テ月額ヲ除シ給與スヘキ日
 數ニ乘シテ給額ヲ定ム

給 與 年 限	區 分	扶 助 米		鹽 菜 料	
		一 人	一 箇 月 ノ 給 額	米	菜 料
第一期 移住ノ月ヨリ滿二箇年間	甲 乙 丙	立米二斗二升五合	四十五錢	三錢	三錢
第二期 第一期後滿一箇年間	甲 乙 丙	立米一斗五升	三十五錢	二錢	二錢
		立米一斗三升五合	三十一錢	三錢	三錢
		立米九升四合	二十一錢	二錢	二錢
		立米五升四合	十一錢	一錢	一錢

第二期 後滿二箇年間	甲 乙 丙	額	額	額
	甲	立米四升五合	七錢五厘	七厘
	乙	立米三升八合	四錢五厘	四厘
	丙	立米一升八合	三錢五厘	三厘

甲額ハ十五歲以上六十歲未滿ノ者ニ、乙額ハ七歲以上十五歲未滿及六十歲以上ノ者ニ、丙額ハ七歲未滿ノ者ニ給與ス

扶助米及鹽菜料ハ毎月一日ノ現員ニ應シ前渡ヲ爲スコトヲ得

第十一條 移住地到着後五日以内ハ扶助米及鹽菜料ニ換ヘ一人一日ニ付三十錢 七歲未滿ハ半額 以テ現賄ヲ給與シ又時宜ニ由リ到着後三十日以内ハ立米ヲ二割減ノ割合ヲ以テ精米ニ換ヘ給與スルコトヲ得

第十二條 扶助米及鹽菜料ノ給與方左ノ如シ

- 一 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ期日ニ後レ移住スル者ハ到着ノ翌日ヨリ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス
- 二 附籍者ニシテ附籍主ト共ニ移住スル者ハ鰥寡孤獨ニシテ自營シ能ハス親戚ノ縁故ニ依リ附籍ノ者ニ限リ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス
- 三 移住後滿三箇年以内ニ於テ婚姻、縁組及出産ノ爲メ入籍スル者ハ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

四 家族中恩給、扶助料其他官給ヲ受クル者ハ其ノ間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス
五 屯田兵給與令ニ依リ糧食及食料ヲ受クルトキ並ニ軍隊旅行演習旅行其ノ他旅費ヲ受クルトキハ日割ヲ以テ扶助米又鹽菜料ヲ控除ス

六 屯田兵條例第四條第四項ニ依リ兵役ヲ免セラレタルトキハ扶助米及鹽菜料ノ給與ヲ止ム

七 第一第三ニ該ル者ハ其戸主扶助滿限ノ日ヲ以テ扶助ノ終期トス

第十三條 屯田兵現役中ニ於テ各兵村一中隊ノ兵村ヲ云フ以下同シニ事業場四棟ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ四棟ノ建坪ヲ合セテ一棟若クハ二三棟トナシ又ハ不用ニ屬シタル官有建物ヲ改修シテ給與スルコトヲ得

事業資金トシテ各兵村ニ一時限リ六百圓ヲ給與シ事業上必要ノ器具費其ノ他ノ費用ニ充テシム

第十四條 屯田兵移住シタルトキハ各兵村ニ學校一棟及所要ノ器具ヲ給與シ且其ノ維持費トシテ一時限リ二百圓ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ一兵村ノ學校ヲ二棟ニ分チ若クハ二兵村ノ學校ヲ合セテ一棟トナスコトヲ得此ノ場合ニ在テハ其ノ器具及維持費ハ之ヲ二分シ若クハ二兵村分ヲ

併セテ之ヲ給與スルモノトス

第十五條 兵村ニ給與シタル事業場、學校及之ニ屬スル器具若クハ事業場學校ノ爲メニ給與シタル金額ノ管理使用ノ方法ハ屯田兵司令官之ヲ定ム

第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ屯田兵移住後滿三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後五箇年間ハ豫メ定ムル所ノ代價ヲ徴收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

第十七條 屯田兵及其ノ家族移住途中ニ於テ死亡スルトキハ實費ヲ以テ埋葬ノ費用ヲ給與シ又其ノ家族ハ屯田兵移住後滿三箇年間ニ於テ死亡スルトキハ左ノ埋葬料ヲ給與ス

- 一 五圓 七歳以上ノ者
- 二 二圓五十錢 七歳未滿ノ者

附 則

第十八條 明治二十七年以前ニ召募シタル者ハ第四條第十二條第十六條第十七條ヲ除クノ外ハ總テ従前ノ規程ニ依ル

●勅令第二百三十九號 (明治二十九年六月三日)

屯田後備役兵村及下士兵卒監視規則

第一條 屯田後備役各兵村ニ兵村監視ヲ置キ其ノ兵村ノ開墾耕稼ニ關スル事務及下士兵卒ノ服役ニ係ル事務ヲ取扱ハシム
兵村監視ハ後備役屯田各兵科曹長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二條 兵村監視ノ職掌開墾耕稼ニ係ルモノハ師團長ニ下士兵卒ノ服役ニ係ルモノハ聯隊區司令官ニ隸ス

第三條 兵村監視ハ兵村ノ下士兵卒ノ動作及開墾耕稼ニ關スル事ヲ監視シ師團長ノ命令ヲ傳達シ又下士兵卒身上異動其ノ他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ聯隊區司令官ニ報告ス

第四條 屯田後備役下士兵卒三日以上十三日以下旅行セントスルトキハ兵村監視ノ承認ヲ受ケタル後其ノ出發時日ヲ届出テ歸村シタルトキハ三日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ

第五條 屯田後備役下士卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アル

トキ之ヲ通報スヘキ者 成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ兵村監視ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出テ許可ヲ受ケタル後其ノ出發時日ヲ兵村監視ニ届出テ歸村シタルトキハ十四日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ其ノ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦本條ニ依リ許可ヲ受クヘシ

第六條 屯田後備役下士卒戶籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ

第七條 屯田後備役下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ近鄰戶主二名ノ證明ヲ受ケ兵村監視ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第八條 屯田後備役下士兵卒ヲ文官ニ採用セントスルトキハ當該官廳長官ヨリ第七師團長ノ承認ヲ受クルモノトス

屯田後備役下士兵卒ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル爲メ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ要スルトキ亦前項ニ同シ但其ノ事故止ミタルトキハ第七師團長ニ通知スヘシ

第九條 第四條又ハ第五條ノ規程ニ違背シ及第六條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 第五條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十一條 屯田後備役下士兵卒師團長ノ命令ニ服從セス又ハ兵村監視ノ職務ヲ妨害スル者ハ二日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

附則

第十二條 本規則ハ隊伍ニ編入セサル屯田豫備役下士兵卒及其ノ兵村ニ適用ス但此ノ場合ニ在テ兵村監視ハ豫備役屯田各兵科曹長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第十三條 本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●陸軍省令第二十六號 (明治廿七年十二月二十八日)

死傷者手當金給與規則

第一條 明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ書類ヲ具シ居住地所管ノ師團長又ハ屯田兵司令官ニ願出ツヘシ
死亡者

一 願書(第一書式) 履歴書、戶籍書寫、死亡報告書又ハ軍醫死亡證書若クハ主治醫死亡證書

傷痍疾病者

一 願書(第二書式) 履歴書、軍醫診斷書又ハ主治醫診斷書

第二條 師團長又ハ屯田兵司令官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ陸軍大臣ヘ上申スヘシ

第三條 本令第九條ノ死者遺族ハ同戶籍内ニ在ル寡婦、孤兒、父母、祖父母、兄弟、姉妹等トス

但手當金ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ以下本文ノ順次ニ依ル

第四條 本令第十條ニ掲クル慰勞金ハ所屬長官審ラカニ事實ヲ調査シ其金額ヲ定メ意見ヲ具シ順次陸軍大臣ヘ上申スヘシ

第五條 本令第一條第二項ニ該ル區域ハ特設部及特設隊要塞砲兵隊ニ屬スルモノトス

第六條 本令第二條傷痍疾病ノ等差ハ明治二十五年當省達第九十九號陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例ヲ適用ス

死傷者手當金給與規則

第七條 本令第三條第四條第五條士官下士ニ準スヘキ職務ノ區分雇員ニ在テハ士官下士ノ職務ヲ命シタル者ハ士官下士ニ兵卒ノ服スヘキ役務ニ從事シタル者ハ卒ニ準シ船舶ノ船員鐵道從事員ニ在テハ左ノ區分ニ依ル

船舶船員士官ニ準スヘキ者

一 百噸以上ノ船長、同運轉手、同機關手、同事務長

同下士ニ準スヘキ者

一 百噸未満ノ船長、同運轉手、同機關手、同事務長、水夫長、事務長、大工、攝取、油差、航海科生徒、機關科生徒

同卒ニ準スヘキ者

一 倉番、水夫、火夫、石炭夫、ラシブ番、小使、料理人

鐵道從事員下士ニ準スヘキ者

一 驛長、助役、豫備助役、機關庫主任、保線手其他之ニ等シキ職務ニ從事スル者

同卒ニ準スヘキ者

一 貨物掛、小荷物掛、車長、電信掛、豫備電信掛、驛長書記、機關方、保線助手其他之ニ等シキ職務ニ從事スル者

第八條 本令附表備考ニ掲クル治療費ハ所属部隊長軍醫診斷證書ニ依リ其金額ヲ定メ適宜支給スヘシ

第一書式 (用紙美濃白紙正副二通)

弔祭料並遺族扶助料願書

雇員(傭人) 故 姓 名

何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月日死亡致候就テハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ相當ノ弔祭料並遺族扶助料下賜相成度別紙履歷書戶籍調書死亡診斷證書相添此段奉願候也

元第何師團何部何隊所属

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

元雇員(傭人)故姓名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

年 月 日

寡 婦 姓 名 印

肩書前ノ如シ 親 族 姓 名 印

同 親 族 姓 名 印

親族ナキトキハ隣佑戸主三名連署スヘシ

(師團長)屯田兵司令官姓名殿

死傷者手當金給與細則

七〇四

前書之通相違無之候也

本籍(寄留地)市(町)(村)長 姓

名 印

第二書式

(用紙美濃白紙正副二通)

手當金願書

何年何月日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月日解雇(傭)ヲ命
セラレ候就テハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ相當ノ手當金下賜相成度別
紙履歷書診斷證書相添此段奉願候也

元第何師團何部何隊所屬

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族平民

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

年 月 日

雇 員(傭人) 姓

名 印

師團長(屯田兵司令官)姓名殿

前書之通相違無之候也

本籍(寄留地)市(町)(村)長 姓

名 印

●海軍省令第十六號 (明治二十七年十二月二十八日)

死傷者手當金給與細則

第一條 明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ死歿若クハ傷痍疾病ノ爲メ手當金ヲ
請求セントスルトキ死歿者ハ第一書式、傷痍疾病者ハ第二書式ノ各請求書ニ證據
書類ヲ附屬シ艦隊ニ屬スルモノハ本管鎮守府司令長官ニ其他ハ總テ所管長官ニ請
求スヘシ

第二條 鎮守府司令長官若クハ所管長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適
當ト認ルトキハ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 扶助料又ハ弔祭料ヲ受クヘキ遺族ハ死者ト同戶籍ニアル寡婦孤兒父母祖父
母兄弟姉妹トス

扶助料又ハ弔祭料ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ給ス以下前項ノ順次ニ依ル
第四條 慰勞金ヲ給與セントスルモノハ所屬長其勤勞ヲ考查シ之カ金額ヲ定メ意見
ヲ附シ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ具申スヘシ

第五條 勅令第六十四號第一條第二項ノ戰地ニ非ラサルモ公務ノ爲メ死傷シタル
モノ、區域ハ左ノ如シ

一 出征事務ニ關シ戰地ニ往復スル者

死傷者手當金給與細則

七〇五

- 一 出征事務ニ關シ使用スル船舶ニ從事スル者
 - 一 戰備完成ノ艦船艇ニ從事スル者
 - 一 防禦事務ニ關シ其業務ニ從事スル者
 - 一 臨時特設部所ニ屬スル者
 - 一 前諸項ノ外出征事務ニ關シ臨時ニ生シタル業務ニ從事スル者
- 第六條 勅令第六十四號第四條ノ傷痕疾病等差ヲ定ムルハ海軍軍人傷痕疾病恩給等差例ヲ摘要ス

第七條 勅令第六十四號第三條第四條第五條ノ軍艦乘組傭人並ニ官用船舶船員ニシテ士官下士卒ニ準スヘキ職務ノ區分ハ左ノ如シ

士官ニ準スヘキ者	事務員	從僕
船長	通辨	剃夫
運轉手	大工	倉番
機關手	楫取	水夫
事務長	油差	火夫

下士ニ準スヘキ者	航海科生徒
機關手心得若クハ見習	機關科生徒
運轉手心得若クハ見習	卒ニ準スヘキ者
水夫長	割烹

石炭夫
ランプ番
小使
料理人

第八條 自己治療ヲ許可シタル傷痕疾病者ニ給スル治療費ハ所屬長ニ於テ軍醫若クハ主治醫ノ診斷ニ依リ適宜金額ヲ定メ支給スヘシ

第一書式 (用紙美濃紙正副二通)

用祭料並扶助料請求書

何 職 故 氏 名

右何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷痕ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日死亡致候就テハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ相當ノ弔祭料並遺族扶助料下賜相成度別紙證據書類相添此段請求候也

元海軍何々所屬
何府何市區何町何番地
何縣何郡何村何番地
華族(平民)

年月日

何府市區何町何番地寄留
元何職故氏名寡婦(孤兒父母祖父母兄弟姊妹)

氏名印

親戚氏名印

親戚氏名印

親戚ナキトキハ居住地ノ戸主一名連署スヘシ

職 爵 氏 名 殿

前書ノ通相違無之候也

年月日

本籍(寄留地)市區(郡)町(村)長 氏 名 印

附屬スヘキキ證據書類

履歷書

戶籍書寫

現認證書若クハ公文寫

負傷證書若クハ罹病證書

軍醫死亡證書又ハ主治醫死亡證書若クハ死亡報告書

第二書式 (用紙美濃紙正副二通)

手當金請求書

何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日何病院ニ入院ノ未解雇(解傭)セラレ候就テハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ相當ノ手當金下賜相成度別紙證據書類相添ヘ此段請求候也

元海軍何々所屬

何府市區何町何番地士(族)平民

何縣何市區何町何番地寄留

元何職 氏 名 印

年月日

職 爵 氏 名 殿

前書之通相違無之候也

年月日

本籍(寄留地)市區(郡)町(村)長 氏 名 印

附屬スヘキ證據書類

死傷者手當金給與細則

履歷書

現認證書若クハ公文寫

負傷證書若クハ罹病證書

軍醫診斷證書又ハ主治醫診斷證書

●閣令第九號 (明治二十七年十二月十四日)

勳章年金支給細則

第一條 勳章年金ヲ賜フ者ニハ賞勳局總裁年金證書ヲ作り之ヲ授與スヘシ

第二條 賞勳局總裁年金證書ヲ授與シタルトキハ受領者ノ官職、氏名、功級若クハ勳等、年金額證書ノ番號授與ノ年月日並年金支給主管ノ地方廳ヲ大藏省ニ通牒シ同省ハ之ヲ該地方廳ニ通知スヘシ

第三條 年金支給ノ初年ニ於テハ其ノ證書ノ日附六月三十日以前ニ在ルモノハ全額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ半額ヲ給ス

年金受領者死亡ノ年ニ於テハ其ノ六月三十日以前ニ在ルモノハ半額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ全額ヲ給ス

第四條 年金ハ毎年六月十二月ノ兩回ニ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ支給ス

第五條 金鵄勳章年金令ニ依リ遺族ニ賜フ年金支給ノ期ハ年金受領者ノ死亡六月三十日以前ニ在ルモノハ七月一日ニ始マリ翌年六月三十日ヲ以テ終リ其ノ死亡七月一日以後ニ在ルモノハ翌年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ヲ以テ終ル

第六條 年金受領者年金ヲ受取ラントスルトキハ年金證書ヲ當該官吏ニ示シ受領者タルコトヲ證明スヘシ

第七條 年金ハ受領者ノ請求ニ依リ其ノ本籍地又ハ寄留地ノ地方廳ニ於テ支給スヘシ年金證書ヲ受領シタル者ハ三日以内ニ支給ヲ受クヘキ地方廳ヲ指定シタル書面ヲ賞勳局ニ差出スヘシ

第八條 年金受領者年金支給主管廳ノ轉換ヲ要スルトキハ現主管廳ニ届出ヘシ現主管廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ新主管廳ニ通知シ其ノ旨ヲ賞勳局及大藏省ニ通報スヘシ

第九條 年金受領者死亡シタルトキハ遺族又ハ親戚ヨリ年金支給主管ノ地方廳ニ届出ヘシ

地方廳ニ於テ最終期ノ年金支給ノトキハ其證書ヲ收メ賞勳局ニ還納スヘシ

金鵝勳章年金令ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ遺族アルトキハ其ノ賜期滿限ノ後還納スルモノトス

年金證書還納アリタルトキハ賞勳局ハ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十條 遺族ニ年金ヲ賜フトキハ其ノ順序左ノ如シ

- 一 寡婦
- 二 孤兒
- 三 父
- 四 母
- 五 祖父
- 六 祖母

孤兒數人アルトキハ家名相續人ニ賜フ其ノ他ハ男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニシ順次年長者ニ賜フ

第十一條 此ノ規則ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ

第十二條 年金ヲ繼受シタル者死亡シハ籍ヲ去リ又ハ公權ヲ剝奪若クハ停止セラレタルトキハ第十條ノ順序ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ者ニ賜フ

年金ヲ繼受シタル寡婦再婚シタルトキ又ハ孤兒年齢二十歳ニ達シ若クハ結婚シタルトキ亦前項ニ同シ

第十三條 年金ヲ繼受シタル者年金支給ヲ受ケサル前ニ於テ前條ノ事故生シタルトキハ其ノ期ノ年金ハ次ノ繼受スヘキ者ニ賜フ

第十四條 年金ヲ繼受セントスル遺族ハ受領者最終期ノ年金支給濟ノ後署名捺印シタル願書(後見人アレハ後見人連署スヘシ)ニ親族二名、親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ

市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長戸長トス以下之ニ倣フ)ノ證印ヲ受ケ且市町村長ノ證明シタル戸籍ノ寫ト年金證書トヲ添付シ年金支給主管ノ地方廳ニ差出ヘシ

地方長官前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ査覈シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第十五條 賞勳局總裁ハ前條ノ願書ヲ審査シ許可スヘキモノト認メタルトキハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ年金支給主管ノ地方廳ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十六條 遺族間年金ヲ遞受セントスルトキモ亦前二條ノ例ニ依ル

第十七條 勳章ヲ有スル者犯罪ノ訴ヲ受ケ拘留(保釋責付亦同シ)セラレタルトキハ拘留ノ日ヨリ放免ノ日迄年金ノ支給ヲ停ム

榮譽汚辱ノ所爲ニ依リ勳章ヲ褫奪セラレタル者ハ其ノ褫奪ノ日ヨリ年金ノ支給ヲ罷ム

輕禁錮以下ノ刑ヲ受クルモ勳章褫奪ニ至ラサル者ハ其犯罪ノ許ヲ受ケ拘留セラレタル日ヨリ刑期終リタル日迄年金ノ支給ヲ停ム

勳章年金支給細則

第十八條 年金受領者失踪シタルトキハ其踪跡分明トナリタル後失踪中ニ受取ルヘキ年金ヲ支給ス

年金受領者失踪中年金ノ支給ヲ停罷セララルヘキ所爲アリト認定スルトキハ年金支給主管ノ地方廳ハ年金ノ支給ヲ猶豫シ其ノ旨ヲ賞勳局ニ具申スヘシ

第十九條 年金ノ支給ヲ罷メラレタル者ニハ褫奪以前ノ分ヲ支給シ其停メラレタル者ニハ其ノ間ノ分ヲ控除シテ之ヲ支給シ其ノ支給額ハ各日割ヲ以テ之ヲ計算ス
年金ノ支給ヲ停罷セラレタル者其ノ停罷以前ノ分ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ年金支給ノ期月拘留若クハ刑期中ニ方ルトキハ次回ノ期月ニ於テ之ヲ支給ス

第二十條 水火災盜難等ニ由リ年金證書ヲ亡失シタルトキハ年金ノ種類、證書ノ番號、年金額及亡失ノ事由ヲ具シ年金支給主管ノ地方廳ニ届出ヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ賞勳局ニ申牒スヘシ賞勳局總裁ハ新ニ年金證書ヲ作り其ノ裏面ニ再度授與ノ旨ヲ記載シ該地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ但亡失シタル年金證書ヲ發見シタルトキハ直ニ地方廳ヲ經テ賞勳局ニ還納スヘシ

年金證書亡失ノ爲メ年金ヲ受取ルコト能ハサル者ニハ新年金證書ヲ授與シタル次

ノ年金支給期月ニ其ノ年金ヲ併セ支給ス

第二十一條 年金受領者氏名ヲ改メタルトキハ市町村長ノ證印アル届書ヲ年金證書ニ添ヘ年金支給主管ノ地方廳ニ差出スヘシ

地方長官ハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記シ署名捺印ノ上本人ニ下付シ其ノ旨ヲ賞勳局及大藏省ニ通知スヘシ

附 錄

年金繼受願

府(縣)郡(市)町(村)番地華士族平民
故官位勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

功何級金鵄勳章年金證何號

氏 名

何年何月生

歲額何百何圓

右ハ夫(父等)氏名何年何月何日死亡候ニ付金鵄勳章年金令第三條ニ依リ何年一月ヨリ同年十二月マテ(何年七月ヨリ何年六月マテ)一年間私拜受仕度別紙年金證並戸籍調書相添此段奉願候也

右寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

勳章年金支給細則

年 號 月 日

氏

名 印

市(町)(村)番地

親 族 氏

名 印

市(町)(村)番地

親 族 氏

名 印

賞勳局總裁爵氏名殿

(遺族年金遞受願書モ此ノ書式ニ準シテ作ルヘシ)

●陸軍省令第二十號 (明治二十八年十月二十四日)

- 第一條 陸軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ公務ノ爲メ又ハ之ニ基因シ死歿シタルモノ、遺族及公務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ癢疾不具トナリタル者等ニシテ軍人恩給法官吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケタルモノ又ハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ扶助料及手當金ヲ受ケタルモノニ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此規程ニ依ル
- 第二條 前條ノ特別賜金ノ給與及支給額ハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法

- 施行規則第六條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書及明治二十七年勅令第六十四號手當金給與ノ辭令書ニ依リ定ムルモノトス
- 第三條 軍人軍屬ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキ者ニハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ給恩證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

- 第四條 明治廿七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スルモノニハ該手當金ヲ支給スルト同時支給スルモノトス

- 第五條 特別賜金ハ軍事公債證書ヲ以テ交付シ五拾圓未滿ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ於テ既ニ郵便貯金通帳ヲ所持スルトキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲナスヘシ

- 第六條 軍事公債證書ノ價格ハ凡テ額面ヲ以テ算ス

- 第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換エント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ陸軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限リニシテ價格ハ額面ニ依ル

- 第八條 特別賜金ヲ受領スヘキモノ死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當

ノ繼承者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添へ通帳記名ノ變更ヲ陸軍省ニ願出ヘシ

第九條 此規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル後傷痍疾病再發若クハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ請求スルモ之ヲ給スルコトナシ

第十條 第三條第四條ノ者ニシテ己ニ恩給證書扶助料證書又ハ手當金等ヲ交付又ハ支給シタルモノハ各書類ニ依リ調査シ恩給證書扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付セシ地方廳及手當金ノ辭令書ヲ交付セシ師團司令部又ハ屯田兵司令部ヲ經テ支給方取計フモノトス

●陸軍省令第二十一號 (明治二十八年十月二十四日)

第一條 明治二十七八年戰役ニ關シ功勞者ニ賜與セラルヘキ一時賜金ハ二十八年勅令第三百七十七號ニ依リ海軍省ニ於テ處理スヘキモノヲ除クノ外陸軍省ニ於テ交付ノ手續ヲナスヘシ但シ地方受給者ニ對シテハ其地方廳ヲ經テ交付スヘシ

第二條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換エント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添へ陸軍省ニ願出スヘシ但シ地方廳ヲ經テ交付シタルモノニ在リ

テハ其廳ヲ經由シテ差出スヘシ

第三條 前條交換請求ハ受領ノ當日限リトス

●海軍省令第三號 (明第二十八年十月十一日)

明治二十八年勅令第四百四十號ニ依リ入院治療ヲ受ケント欲スルモノハ其願書ニ海軍醫官又ハ地方醫師ノ診斷證書ヲ添へ最寄鎮守府病院ニ願出ツヘシ

鎮守府病院ニ於テ前項ノ診斷ヲ受ケタルトキハ病院長ハ之ヲ審査シ鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ入院ヲ許可ス其入院中ノ諸費ハ該病院ニ於テ支辨スルモノトス

●海軍省令第四號 (明治二十八年十月二十四日)

第一條 海軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ公務ノ爲メ又ハ之ニ基因シ死歿シタルモノ、遺族及公務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ廢疾不具トナリタルモノ等ニシテ軍人恩給法官吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケタルモノ又ハ明治廿七年勅令第六十四號ニ據リ手當金ヲ受ケタルモノニ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此規定ニ據ル

第二條 前條ノ特別賜金ノ給與及支給額ニ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書及明治廿七年勅令第六十四號手當金給與ノ金額ニ依リ定ムルモノトス

第三條 軍人軍属ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキモノニハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

第四條 明治廿七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スルモノニハ該手當金ヲ支給スルト同時支給スルモノトス

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書額面ヲ以テ交付シ五十圓未滿ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ於テ已ニ郵便貯金通帳ヲ所持スルキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 特別賜金ハ總テ所管地方廳ヲ經テ支給ス所管地方廳ハ適宜之ヲ本人ニ交付シ其受領書及調印シタル貯金預入申込書ヲ海軍省ニ送付スルモノトス

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換エント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添エ地方廳ヲ經テ海軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限

ニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキモノ死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼續者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添へ通帳記名ノ變更ヲ海軍省ニ願出ツヘシ

第九條 此規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル后傷痍疾病再發若クハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ請求スルモ之ニ給スルコトナシ

第十條 第三條、第四條ノモノニシテ已ニ恩給證書扶助料證書又辭令書又ハ手當金等交付又ハ支給シタルモノハ各書類ニ依リ之ヲ調査シ支給方取計フモノトス

●勅令第三百八十一號 (明治二十九年十二月二日)

陸軍管區表

師管聯隊區警備隊區		管		府		縣	
近	本	東京	本	埼玉	北	立	南
宇都宮	本郷	所區深川區南足立郡北豐島郡	本郷區淺草區下谷區南葛飾郡本	埼玉	北	立	南
		栃木 茨城 眞壁郡 結城郡 猿島郡		埼玉	北	立	南
				埼玉	北	立	南

陸軍管區表

衛		第				一		第					
佐倉	水戸	麻布	横濱	高崎	長野	小笠原島	東京	小笠原島	仙臺	福島	新發田	柏崎	
千葉	茨城 水戸市東茨城郡西茨城郡那珂郡多賀郡久慈郡 鹿島郡行方郡新治郡筑波郡稻敷郡北相馬郡	東京 麻布區麴町區神田區日本橋區京橋區荏原郡豊多摩郡赤坂區 豊谷區小石川區牛込區芝區西多摩郡南多摩郡北多摩郡伊豆七島 都筑郡	神奈川 横濱市久良岐郡鎌倉郡三浦郡中郡高座 郡愛甲郡津久井郡足柄上郡足柄下郡	群馬 埼玉 入間郡比企郡秩父郡 児玉郡大里郡	長野	小笠原島	東京 小笠原島	小笠原島	宮城 仙臺市宮城郡柴田郡刈田郡伊具郡互理郡名取郡 黒川郡加美郡志田郡玉造郡遠田郡桃生郡牡鹿郡	福島 信夫郡安達郡安積郡岩瀬郡南會津郡北會津郡耶麻郡河沼郡 大沼郡東白川郡石川郡田村郡石城郡雙葉郡西白河郡	新潟 新潟市南蒲原郡北蒲原郡中蒲原郡 西蒲原郡東蒲原郡岩船郡古志郡	新潟 刈羽郡三島郡北魚沼郡南魚沼郡中魚沼郡 東頸城郡中頸城郡西頸城郡	

第		第				第				第		
尾道	廣島	京都	大津	和歌山	大阪	静岡	豊橋	津	名古屋	佐	新	潟
廣島 御調郡世羅郡甲奴郡 品治郡安那郡深津郡	廣島 廣島市安藝郡加茂郡豊田郡高宮郡 沼田郡佐伯郡山縣郡高田郡	京都 上京區下京區愛宕郡葛 野郡乙訓郡紀伊郡宇治 郡久世郡相樂郡綴喜郡 奈良 添上郡生駒郡磯城郡 郡宇陀郡山邊郡北葛城郡 郡高市郡南葛城郡	滋賀 三重 阿山郡 名賀郡	和歌山 奈良 吉野郡 宇智郡 兵庫 津名郡 三原郡	大阪 西區東區南區北區堺市東成郡南河内郡 中河内郡北河内郡泉北郡泉南郡	静岡 静岡市安倍郡志田郡榛原郡駿東郡小笠郡 周智郡富士郡庵原郡賀茂郡田方郡	愛知 渥美郡八名郡寶飯郡西加茂郡東加茂郡 南設樂郡北設樂郡額田郡幡豆郡	三重 飯南郡多氣郡度會郡志摩郡南牟婁郡北牟婁郡 津市安濃郡桑名郡員辨郡三重郡鈴鹿郡河藝郡一志郡	愛知 名古屋市愛知郡知多郡 東海郡海西郡碧海郡	佐	新	潟

陸軍管區表

陸軍管區表

第五		第六				第七		
山口	濱田	熊本	大村	鹿兒島	宮崎	大島	沖繩	五島
山口 大島郡 玖珂郡 熊毛郡 都濃郡 佐波郡 吉敷郡 厚狭郡 美禰郡 大津郡 阿武郡	山口 吉敷郡 厚狭郡 美禰郡 大津郡 阿武郡	熊本 熊本市 飽託郡 宇土郡 玉名郡 上益城郡 下益城郡 八代郡 葦北郡 球摩郡 天草郡	長崎 長崎市 西彼杵郡 東彼杵郡 北松浦郡 南高來郡 北高來郡 壹岐郡	鹿兒島 鹿島市 鹿兒島郡 日置郡 揖宿郡 川邊郡 出水郡 伊佐郡 薩摩郡 始良郡	宮崎 鹿兒島 肝屬郡	大島 鹿兒島 熊毛郡	沖繩 繩沖繩	五島 島長崎 南松浦郡
廣島郡 奴可郡 三上郡 蘇郡	三次郡 三谿郡 三上郡							

第八		第九			第十		第十一			
富山	金澤	山形	秋田	盛岡	弘前	十勝	根室	函館		
富山 岐阜郡 大野郡 益田郡 吉城郡	石川	山形	秋田	宮城 登米郡 栗原郡 本吉郡	巖手 盛岡市 巖手郡 紫波郡 和賀郡 膽澤郡 江刺郡 西磐井郡 東磐井郡 氣仙郡 稗貫郡 上閉伊郡 下閉伊郡	青森 巖手 九戸郡	北海道 廣尾郡 沙流郡 新冠郡 靜內郡 浦河郡 様似郡 幌泉郡 三石郡 日高郡	北海道 函館區 龜田郡 上磯郡 松前郡 檜山郡 爾志郡 茅部郡 渡島郡 久遠郡 奧尻郡 太櫛郡 瀬棚郡 島牧郡 壽都郡 歌棄郡 磯谷郡 (後志國) (山越郡) (膽振國)	北海道 積丹郡 岩内郡 古宇郡 (後志國) 千歲郡 室蘭郡 有珠郡 虻田郡 札幌郡 白老郡 勇拂郡 (膽振國) 増毛郡 留萌郡 苫前郡 天鹽郡 中川郡 上川郡 (天鹽國) 宗谷郡 枝幸郡 禮文郡 利尻郡 (北見國)	北海道 根室郡 花咲郡 野付郡 標津郡 目梨郡 (根室國) 網走郡 斜里郡 常呂郡 紋別郡 (北見國) 厚岸郡 釧路郡 阿寒郡 川上郡 白糠郡 足寄郡 (釧路國) 色丹郡 得撫郡 新知郡 苦守郡 國後郡 振別郡 擇捉郡 藥取郡 沙那郡 (千島國)

陸軍管區表

陸軍管區表

第九		第十			第十			第十				
鯖江	岐阜	福知山	神戶	姫路	岡山	丸龜	德島	松山	高知	小倉	大分	福岡
福井市足羽郡吉田郡坂井郡大野郡海津郡養老郡不破郡安八郡揖斐郡本巢郡山縣郡	岐阜市稻葉郡羽島郡武儀郡上愛知郡西春日井郡東春日井郡	京都府南桑田郡北桑田郡兵庫父郡美方郡水郡	兵庫市武庫郡川邊郡有馬郡西成郡三島郡	兵庫郡加西郡多可郡神崎郡加東郡美郡八頭郡	岡山市兒島郡御野郡上道郡津高郡赤阪郡磐梨郡邑鳥取西伯郡	香川徳島愛媛	徳島郡三好郡	松山郡	高知郡	福岡遠賀郡企救郡田川郡	大分玖珠郡日田郡山口赤間關市	福岡糸島郡早良郡三井郡久留米市八女郡浮羽郡

備	考
一 警備隊設置迄ハ東京府小笠原島ハ麻布聯隊區ニ新潟縣佐渡ハ柏崎聯隊區ニ島根縣周吉、穩地、海士、知夫四郡(隱岐)ハ濱田聯隊區ニ鹿兒島縣大島、熊毛二郡及沖繩縣ハ鹿兒島聯隊區ニ長崎縣南松浦郡ハ大村聯隊區ニ属ス	二 臺灣ノ管區ハ他日ヲ待テ之ヲ定ム
三 第七師管ヲ除クノ外師管軍法會議ノ管轄ニ關シテハ當分從前ノ區域ニ依ル	

佐賀 福岡 三潯郡山門郡三池郡

徵兵規則類纂終

陸軍管區表



明治二十五年六月十八日第一版出版
 明治二十六年五月十一日第二版出版
 明治二十八年三月二十五日第三版出版
 明治二十九年四月十一日第四版出版
 明治三十二年七月四日第五版出版
 明治三十四年十一月十七日第六版出版
 明治三十九年一月廿三日第七版出版
 明治四十一年三月廿一日第八版出版
 明治四十三年六月廿七日第九版出版
 明治四十四年九月廿三日第十版出版
 明治四十六年十二月廿六日第十一版出版
 明治四十八年三月廿一日第十二版出版
 改正增補

三重縣伊勢國津市
上濱町百貳番屋敷

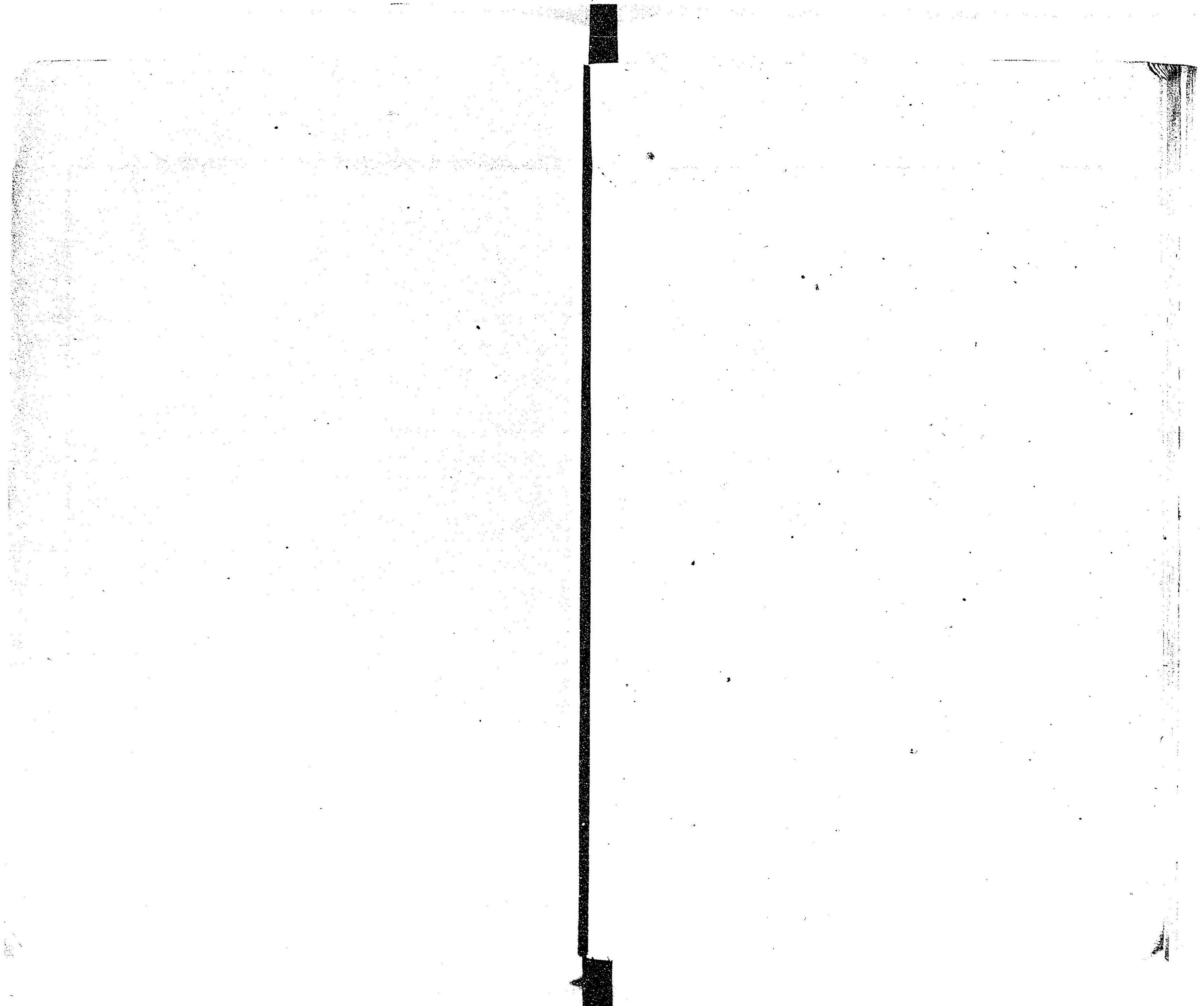
著作兼發行者

春日井是信

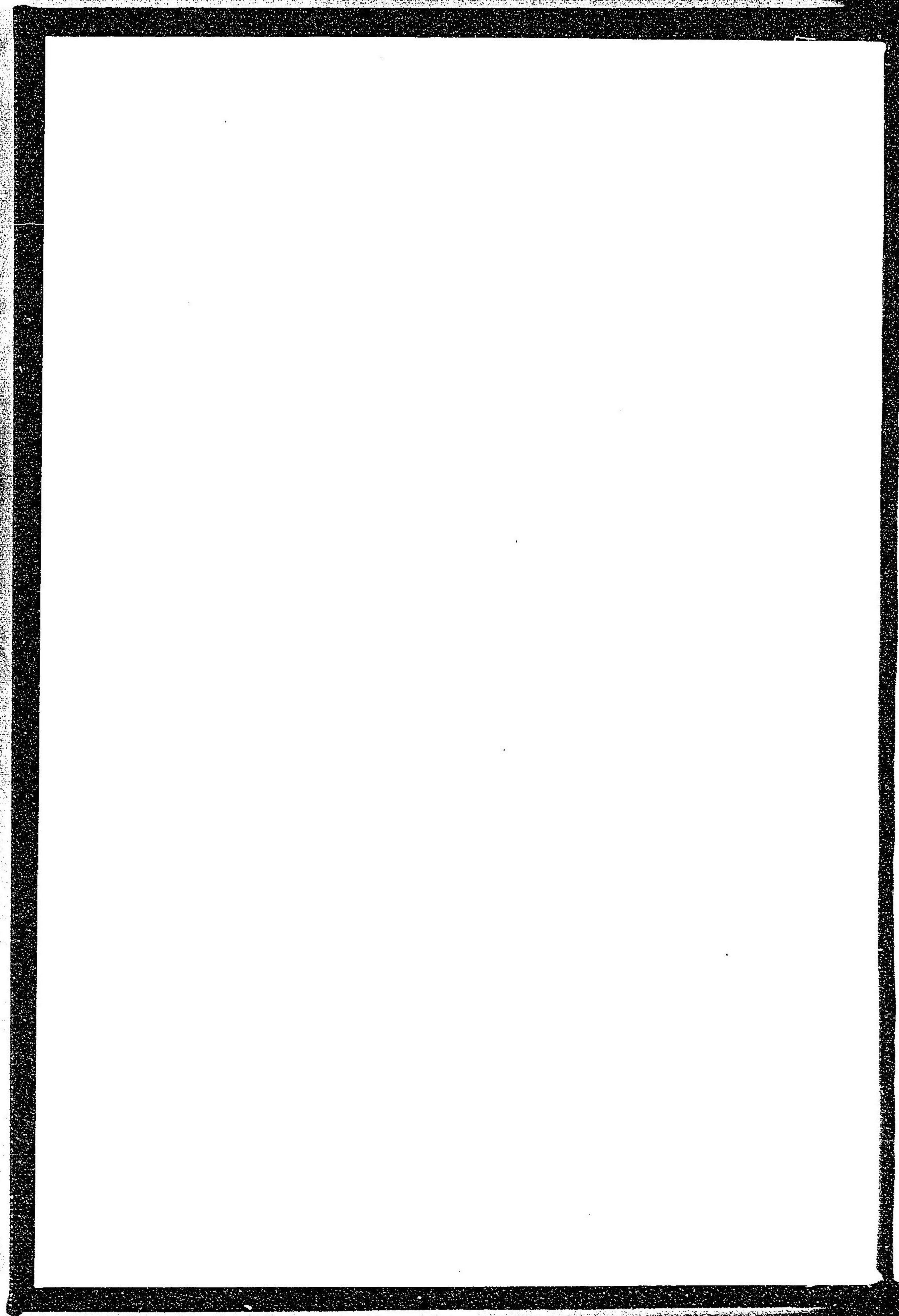
三重縣伊勢國津市
釜屋町廿一番屋敷

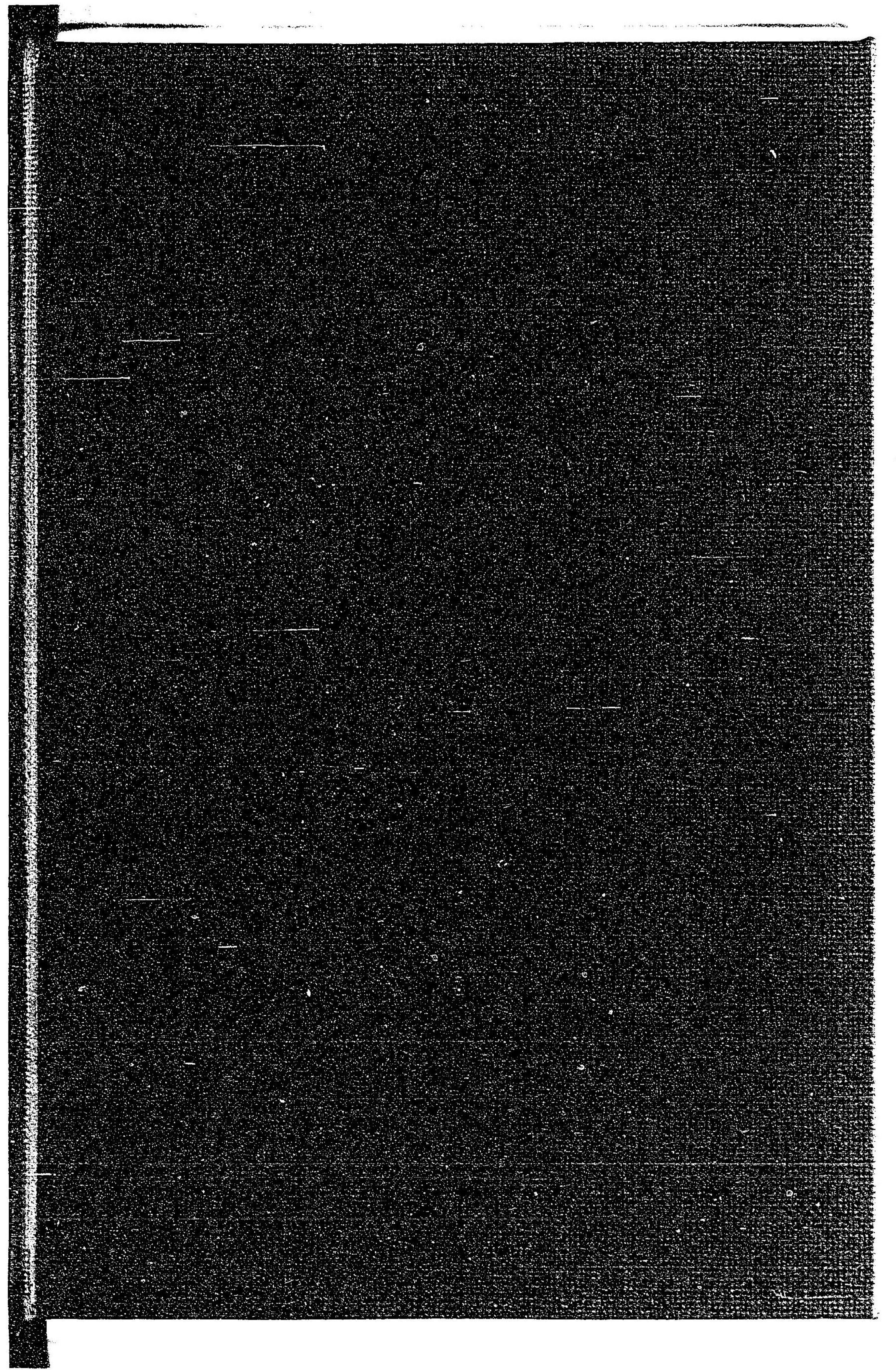
印刷者

鈴木嘉兵衛



97758





禁電子式複写

039010-008-9

CZ-671-093

徵兵規則類纂

春日井 是信/編

M28-38

BCC-0245



